

W e b 配布版

転載する場合は許可が必要です。

平成 1 8 年度

「郷土日野」指導事例集

第 2 集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

「郷土日野」教育の充実に向けて 2 年目の挑戦

日 野 市 立 教 育 セ ン タ ー

所 長 篠 原 昭 雄

新しい教育基本法の「教育の目標」（第 2 条）「伝統と文化の尊重」「郷土を愛する文言を引用するまでもなく、日野市の教育ビジョン「ひのっ子教育 2 1－基本と先進の教育－」に、「世界に開く視野」の育成として、“日野の地に根ざし”“開かれた郷土意識を基盤”とすることが示されています。また、日野市教育委員会の基本方針にも「地域に対する誇りと愛着を育む」ことが示されているように、「郷土日野」教育の推進が求められています。その目標に対しては、学校教育においても、児童・生徒に“郷土日野”の自然や風土、文化や歴史に親しませ、郷土の特色や“かけがえのなさ”を知り、郷土に対する誇りと愛着の意識を育てることは極めて重要と考えられます。

ことに近年、日野市では、郷土に関するイベントが開催されて市民の関心も高まり、また、それを契機に郷土の諸資料の開発も進み、“ひのっ子”“日野人”の学習と意識の啓発が期待されるようになりました。また、日野市の学校教育のビジョンとしての「学校教育の基本構想」の検討が進められようとしています。こうした動きに対しても、「郷土日野」教育の充実は極めて重要と考えられます。

このようなことから、学校において「郷土日野」教育の充実を図るため、教育センターのふるさと教育係では、開設 1 年目に環境教育「ひのっ子エコアクション」の研究を行い、2 年目の昨年度には、郷土教育推進研究委員会を組織して調査研究を行いました。その成果を『教育センター紀要』に掲載するとともに、『「郷土日野」指導事例第 1 集』を刊行して、その普及に努めてきました。

本年度はそれを引き継ぎ、調査研究を進めてきました。具体的には（１）社会科・理科・総合的な学習など、各教科等における“郷土日野”の教材開発とそれを活かす学習指導法の研究（２）日野市の学校副読本や郷土諸資料の活用の仕方（３）地域の教育資源活用の観点から「郷土資料館」「新選組のふるさと歴史館」「図書館」などの学校教育での活用についての研究です。

研究に当たっては、小杉、秋山両校長先生はじめ教科担当の先生、学芸員・図書館職員など社会教育関係の委員が、学識経験の深い会田先生などの協力を得て、校務・職務多用のなか調査研究を重ねてきました。中身の濃い教材開発の調査研究や授業に活きる教材・授業法の研究は、これらの方々の努力の成果だと思います。また、本研究の目標の一つは、これらの研究の成果が、日野の学校において、授業の中で具体的に活かされてこそ大きな意義をもつと考えられます。

本研究委員会では、その活用を目指して、授業を行う先生方に具体的に役立つように、「郷土日野」教育の充実に向けて 2 年目の挑戦として、『指導事例第 2 集』を刊行しました。本事例集は、研究委員会を構成する先生方が、それぞれ郷土教材の開発とそれを用いた具体的な授業で実践したものを、委員会で検討し合って各学校で活用できるようにまとめたものです。是非とも各学校・教科等において活用していただくことを期待しています。

最後になりましたが、本研究を支えてくださった委員の先生方、日野市教育委員会及び学校教育関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

目 次

表紙「平成18年度『郷土日野』指導事例集第2集」

挨拶

目次

I. 研究主題・主題設定の理由と研究の構想

II. 授業で使える郷土教材

1. わが地域が誇る郷土教材

- (1) 日野の用水
- (2) 日野煉瓦
- (3) 甲州道中と日野宿
- (4) 黒川清流公園と多摩平の森
- (5) 多摩平団地の今と昔
- (6) 百草周辺の文化財
- (7) 多摩八王子競馬場
- (8) 中世の武士
- (9) 坂西横穴墓群 *原稿見当たらず!!!
- (10) 平山陸稲と林丈太郎
- (11) 自由民権運動と日野

2. 郷土資料館、図書館などにある郷土資料の活用と活用例

◎ 郷土学習情報蓄積機関係図

- (1) 復元住居を活用した授業例
- (2) 中学校「調べ学習」授業例
- (3) 小学校「古い道具と昔のくらし」に活用できる資料例
- (4) 郷土資料館利用案内
- (5) 参考文献<「郷土日野の歴史学習のために」－日野市史の概要紹介－>
- (6) 新選組のふるさと歴史館の利用
- (7) 日野宿本陣の利用
- (8) 日野宿交流館の利用
- (9) 新選組関係民間資料館の利用
- (10) 日野市立図書館の利用
- (11) 図書館に問い合わせの多い質問
 - ①住宅地図（航空地図）
 - ②航空写真
 - ③広報ひの
 - ④人口
 - ⑤湧水
 - ⑥大字・小字
 - ⑦地名の由来
 - ⑧神社・寺院
 - ⑨多摩動物公園
 - ⑩方言
 - ⑪植物
 - ⑫動物
 - ⑬気象・天気

3. 日野の学校のあゆみ

①教材としての活用の意義 ②寺子屋から郷学校 ③明治から現在までの学校の変遷

III. 郷土教材を活用した授業の展開例

- (1) 日野の用水（小4・総合「日野の用水」）
- (2) 平山陸稲と林丈太郎（小4・社会「地域の発展につくした人々」）
- (3) 高幡不動尊・高幡城・百草園・百草八幡宮・多摩動物公園（百草周辺の文化財）
小6・総合「これがわが町！百草の歴史」
- (4) 自由民権運動と日野（小6・社会「明治維新をつくりあげた人々」）
- (5) 高幡の歴史（小6・総合「高幡プロジェクト」）
- (6) 旭が丘・昭和35年（中1・地理「身近な地域を調べよう」）
- (7) 多摩平団地の今と昔（中1・地理「身近な地域を調べよう～郷土日野を調べよう」）
- (8) 坂西横穴墓群（中1・地理「身近な地域の歴史」） *原稿見当たらず!!!
- (9) 多摩動物公園（中1・道徳「日野の宝ー地域につくした人々ー」）

IV. まとめと課題

平成18年度郷土教育推進研究委員

資 料

1. 各校の記念誌に収録された郷土教材
2. 『『郷土日野』指導事例第1集』、並びに、郷土教材の活用状況について

日野の自然・歴史・文化に光をあてる

＜ 研究主題 郷土意識を育む指導のあり方 ＞

―郷土と人々との関わりの理解をとおして―

I. 研究主題・主題設定の理由と研究の構想

2年目となる本年度は、平成17年度の研究主題「郷土意識を育む指導のあり方」を継続し、「指導事例 第1集」の反省と課題、並びにその活用状況に関する実態調査の集計・考察をふまえた研究を行い、その成果を『郷土日野』指導事例 第2集にまとめる。

第2集作成にあたっては

- ① 環境に自ら働きかける児童生徒の育成を目指した授業実践例を提示、郷土教育において期待される児童生徒像を打ち出す。
- ② 学区を中心としながら、地域を広げ授業に使える郷土教材の収集・開発を行う。
- ③ 郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館、小・中学校、教育センターの協働による研究から新たな学習活動の方向性を探り、具体事例を提示する。

の3点を重点とし、学校現場の郷土教育推進に寄与し、日野の教育に根づかせていく。

改正された教育基本法では、これからの教育の役割に公共の精神、規範意識、伝統や文化を大切にする心を継承すべき価値として育まれていかなくてはならないことが条文に掲げられた。今後具体的な取り組みが進んでいく中で、地域社会の事象や自然と、人々の働き、・関わり・願いを学ぶ郷土教育の実践はますます重要になっていくものと考ええる。

さて、郷土について問われたとき、私たちは何を思い巡らせるだろうか。現に住んでいる場所や、自分が生まれ育った場所の自然、歴史、文化、伝統、そして、人との関わりの中で語られる。

小学校唱歌「ふるさと」にある「うさぎ追いしかの山、小鮒つりしかの川…」の歌詞などに思うことは、自分が生まれ育った土地の思い出や、なつかしさからくる子どもの頃への郷愁にある。庇護、親しみ、安らぎ、充実感といった、人間として成長していくための原点となる学習経験は、郷土を学び郷土を考える郷土学習にあると考える。

郷土意識は、こうした学習経験によって生じるもので、学習経験の積み重ねこそが郷土に愛着をもつ日野人を育成する。

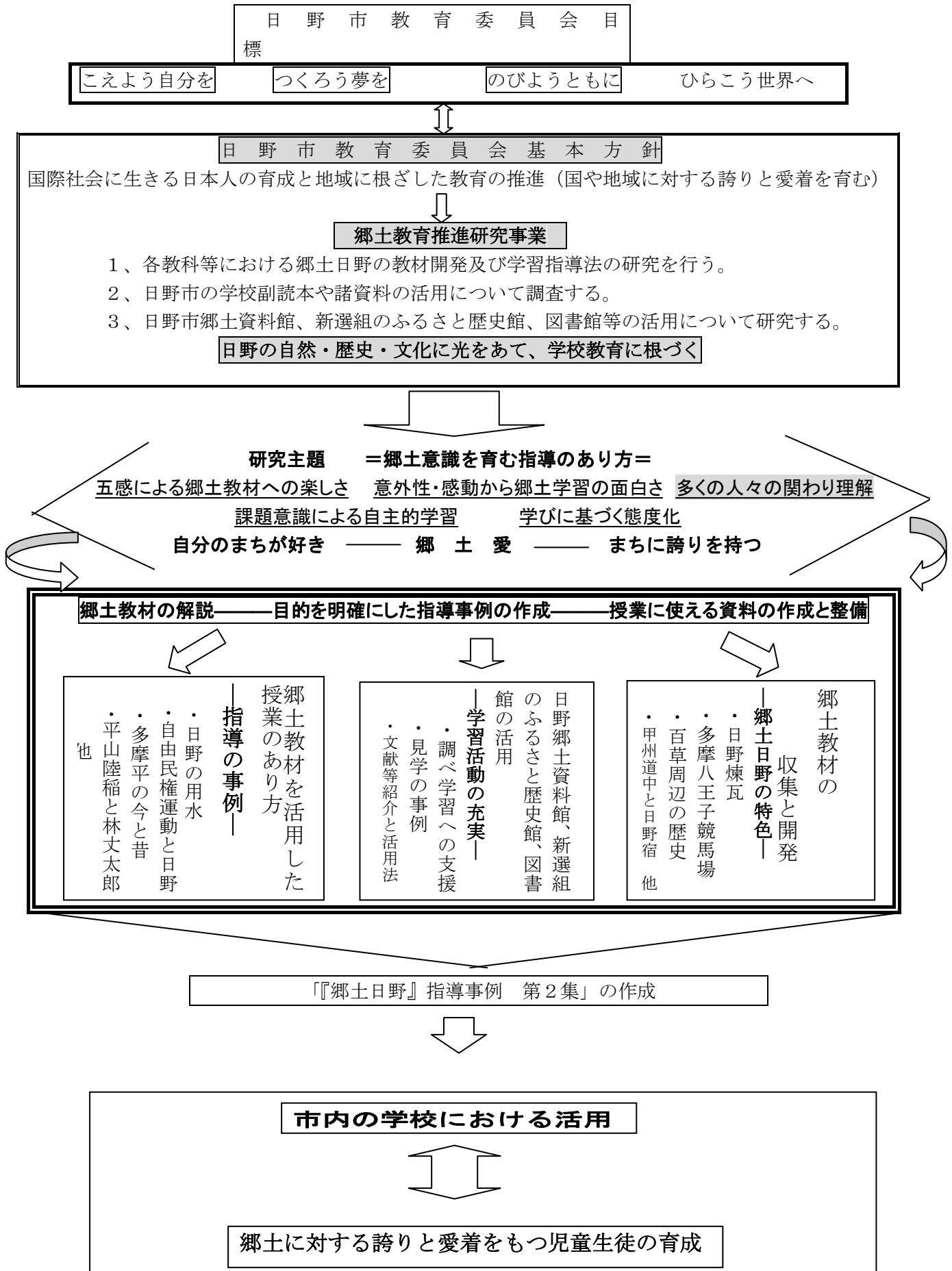
地域から、昔のもの・原風景が失われてきている現状において、今こそ、学校教育の中で日野の自然・歴史・文化に光をあて、児童生徒に自らの郷土を意識させ所属感を醸成し、郷土を大切にする心、郷土を考える姿勢を育むことは、人間形成の上で極めて重要なことである。

そこで、

副主題 ―郷土と人々との関わりの理解をとおして―

を設定し、郷土日野の自然、歴史、文化を築いてきた先人の業績や努力、さらには、現在郷土を育て発展させようと力を尽くしている人々がいることを、どのように教材化するか、そして、これらを共感的に理解する指導のあり方について、学校、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館、教育センターとの協働による研究を行う。

研究の構想図



Ⅱ．授業で使える郷土教材

1. わが地域が誇る郷土教材

(1) 日野の用水



よそう森

人々の生活を支えてきた。

昭和 51(1976)年、市は通年通水を主目的とした清流条例を制定し、さらに平成 18 年清流保安条例を制定して、河川や用水の保全と湧水・地下水の回復を目指している。用水の管理は 4 月から 9 月の灌漑期は用水組合、10 月から 3 月の非灌漑期は市(緑と清流課)が行っている。日野用水の取水口の工事は市の産業振興課の担当になる。なお、平成 7(1995)年、日野市は都では墨田区とともに国土庁から「水の郷(さと)」に指定されている。その指定のポイントの 1 つとして、市と市民による用水路の積極的な維持・管理が挙げられており、教材としてまちづくりに対する人々の願いや働きが学びやすい。また、市も緑と清流課を中心に、自然と共生する親水空間づくりを試みており、国内でも先進的な取り組みをしている。

<概要>

日野市内の用水は多摩川から 2、浅川から 8、程久保川から 2 取水しており、その合計 12 の長さは約 170 km になる。田用水として 21ha に活用されているが、宅地化の進行とともに減少している。今後は地域の防災用水や環境用水としての活用も期待されている。

日野用水の始まりは佐藤家文書からは永禄 10(1567)年になるが、南広間地遺跡の発掘からは 8 世紀の用水路跡が検出されている。いずれにしても長期間、田用水や生活用水・飲料水、江戸時代中期からは水車の動力源として日野市域に居住する

<活用学年と教科・道徳・領域等：小学校 4 年 総合的な学習の時間>

用水は、多摩川や浅川沿いの低地に広がっていることから多くの学校で教材として取り上げることができる。その教材化のポイントは、次の 4 点になる。①用水は、地域の自然環境の 1 つであると同時に、市が「水の郷」に指定されていることから地域の特色の 1 つとしてとらえることができる。②用水では、ザリガニや小魚などを取ることができる場所もあり、環境教育の第一歩として自然と触れ合う体験ができる。③江戸時代、もしくはそれ以前から続いてきた用水は、何百年にわたって日野に住む人々の生活(米作りなど)を支えてきた歴史がある。④用水を保全・活用するために用水組合や市、市民、最近では大学(法政大学院エコ研など)が協力している。その関係から、市(緑と清流課職員)や用水組合員(用水沿いの農家)、植物や魚・鳥などの専門家、環境保全に関心のある市民グループ、用水守などから聞き取り調査ができ、地域の人々と関わりながら学習を進めることができる。

- <参考文献>
- ・『用水であそぼう！－日野の用水攻略本－』日野市 1998 年
 - ・用水の会『日野の用水』Ⅰ～Ⅲ 1995 年～1997 年
 - ・『水辺を生かすまちづくり計画報告書』日野市
 - ・『日野市水辺環境整備計画』日野市 1993 年
 - ・『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983 年 など。
 - ・『用水を総合的な学習に生かす－日野用水を例にして－』2004 年

(2) 日野煉瓦(れんが)

<概要>



明治 22(1889)年 8 月、立川―八王子間の甲武鉄道(今の J R 中央線)が開通した。この敷設工事のうち、多摩川や浅川を越える鉄橋、日野台地の開削などが難所だったと思われる。当時、鉄道の建設、特に鉄橋建設に当たっては大量の煉瓦を使用した。煉瓦は重量があることから、生産地から消費地までの運輸手段の確保が大変であった。このため、現地で生産することが多く、日野煉瓦工場も甲武鉄道建設の一環として、高木吉造、河野清助、土淵英など土地の有力者によって作られた。つまり、多摩川鉄橋(仲田小付近)に対応して、明治 21 年 1 月日野に煉瓦工場が設立された。

この日野煉瓦工場は、現在の日野市日野 1620-1 他(警察署の向かい側、当時の日野宿の東端。1 小学区)にあり、原料の粘土は、工場の南

J R 日野駅北のアーチコルベルト 約 500m 付近の藪沼(いぬま、日野 4 小学区)から採掘した。周辺は、近世から瓦生産が営まれ、瓦用の粘土の採掘や瓦の製造が行われていた。煉瓦の技術者として横浜の横田金佐衛門が招聘されたので、地元の瓦職人は彼の指導の元で煉瓦作りに従事したと考えられる。また、粘土に混入する砂は、多摩川の河原から採取した。つまり、工場の位置は①原料の採掘場に近く、②瓦職人が近隣にいて、職人の確保が容易、③供給先(多摩川鉄橋)に近く、④日野宿の東端で煙害などの苦情の少ない所にあった。

甲武鉄道開通直前の明治 22 年 7 月、日野宿の人々は、煉瓦工場の支配人土淵英を中心に日野停車場(現在の J R 日野駅)誘致運動を始め、10 月には停車場用地の提供と寄付金の提供を申し出ている。煉瓦工場の貢献や誘致運動が実って、明治 23 年 1 月日野停車場が開設され、明治 26 年には日野宿に町制が施行され、日野町になる。なお、煉瓦工場は 23 年 8 月に廃止している。このように、煉瓦工場とその設立にあった人々は、日野の近代化に大きな役割を果たした。

<活用学年と教科・道徳・領域等：小学校 3・4 年社会科>

「地域の発展に力を尽くした人々―土淵英と日野煉瓦―」または「むかしのくらし 二つの鉄道と橋」

<資料>

実物は、J R 中央線多摩川鉄橋橋脚、J R 日野駅北の日野用水上の土手の壁面(アーチコルベルト)、日野駅南の飯綱権現(稻荷社)の土台の一部。また、日野市新選組のふるさと歴史館に多数収集されている。また、この調査を行っている清野利明氏は日野市の学芸員で直接話が聞ける。

<参考文献>

- ・『わたしたちの日野』 p 50
- ・日野市教育委員会『日野市埋蔵文化財発掘調査報告 59 日野市埋蔵文化財発掘調査輯報 X』1998 年
- ・北村澄江「日野煉瓦について」『多摩のあゆみ』第 70 号 1993 年
- ・清野利明「煉瓦に見た“多摩の近代化”―鉄道建設と煉瓦工場―」『多摩のあゆみ』102 号 2001 年

(3) 甲州道中と日野宿

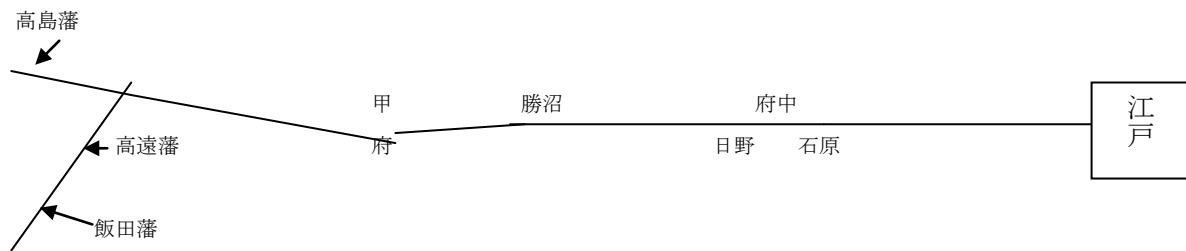
慶長年間（1596～1614）、江戸幕府は日本橋を基点として国内の街道を整備した。甲州道中は代官頭・大久保長安によって整備が進められ、慶長 10 年（1605）には日野が宿場に取り立てられた。（当初、甲州海道→正徳年間より近世は甲州道中に統一）

宿場の街並みは街道の両側に沿った東西 9 町（約 1 キロメートル）余で、東から西に下宿、中宿、上宿に分かれ、宿の東の端には東の地蔵が、西の端には西の地蔵が今でもたっている。

中宿には、

- 本陣（大名や幕府役人用の旅館・上佐藤家が務める）、
- 脇本陣（本陣に準じた旅館・下佐藤家が務める）、
- 問屋場（本陣の向かい側にあり、荷物の継ぎ立て行う。毎月 1 日～15 日は下佐藤家が、16 日～晦日は上佐藤家が分担して行った）など宿の機能が集まっていた。

参勤交代で甲州道中を通過した大名は、高島藩諏訪氏、高遠藩内藤氏、飯田藩脇坂氏の 3 藩に限られていた。



高遠藩参勤交代の道筋（史料「従高遠江戸マデ道中記」高遠藩代官岩崎博秋記す）

高遠の城—金沢峠—金沢宿—甲州道中—勝沼（観音坂は岩を切り通す難所）—日野（日野宿外れより左へ行べし、向うの道は古道なり）—内藤新宿下屋敷—小川町の上屋敷に到着
○高遠を立って江戸まで 6 日間の旅であった。



幕末、この日野宿本陣に天然理心流の佐藤道場を開いたのが、名主である下佐藤家の佐藤彦五郎（土方歳三の義兄）である。

治安が悪くなり、日野宿の治安を自ら守るために剣術のけいこに力を入れた。この佐藤道場は、土方歳三と近藤勇や沖田総司らとの出会いの場になったところである。

（新選組についての詳細は「ひのっ子新選組探検隊」平成 16 年 3 月日野市教育委員会を参照）

<活用学年と教科・道徳・領域等：小学校 6 年「社会科」>

江戸幕府の始まり、大名行列について、また幕末・明治維新を学習するとき、話材として挿入することで、郷土の人々と当時の社会の動きとの関連性をとらえることができる。

<参考文献>

- ・生涯学習課・日野市新選組村おこし室「甲州道中と日野宿」
- ・日野市郷土資料館「絵図から見える江戸と日野」

(4) 黒川清流公園と多摩平の森

<概 要>

黒川清流公園は、東豊田緑地保全地域内にあり、日野台地の崖線から湧き出す豊富な湧水を生かした豊かな緑と清流の公園である。かつて、このあたりは湿地地域で、池やわさび田があった。

昭和 48 年に吹上げ土地区画整理事業によって公園として整備され、崖線下の平らな所は散策路として整えられた。崖線から湧き出してくる湧水は公園に沿う側溝に流れ込んでいた（当時の公園の広さは巾 10m、延長 600m）。昭和 50 年には、崖線上の台地上の多摩平第一緑地等とともに、東京都条例に基づき緑地保全地域に指定された。

現在の水路は昭和 58 年から 4 年かけて、できるだけ自然のかたちを残し、たくさんの市民が憩う場所として整備されたものである。湧水を利用した池には鴨や鯉が、水路にはザリガニなどの水生動物を観ることができ、子どもたちにとって水遊びや自然観察ができる楽しい体験学習の場所として利用されている。

野鳥の生息地となっている周囲の雑木林に目を向けると、「萌芽更新」と書かれた表示板があるので、何をする事なのかを考えさせ、自然を守るために地域の人々の働きかけがあることを学ばせたい。萌芽更新とは、伐採後の切り株からでてきたたくさんの芽を整理し育て、樹木の若返りを図ることである。二次林としての雑木林が本来の姿を保つためには、こうした手入れが必要になる。水路の清掃、萌芽更新地管理・調査などの活動は、地元黒川婦人会や、東豊田緑湧水の方々などによって長く地道

に行われている。

平成 2 年度、建設省より「手づくり郷土賞」を受賞。平成 18 年度には過去の郷土賞受賞箇所の中から選出され、国土交通省より「手づくり郷土賞大賞」を受賞。近年、「黒川湧水を生かす会」の人たちによって、崖下に流れ出る豊富な湧水を利用して日野の「わさび」が栽培されている。緑と清流、緑と湧水のまちづくりに取り組む人々に活動の様子や環境づくりへの思いや願いを聞いたり、調べたりする学習活動によって、自分たちの暮す「ふるさと日野」のよさを理解させたい。



<多摩平の森とストーン牧師>

多摩平の森とは、多摩平団地周辺の緑を総称した名称で、大正 11 年宮内省帝室林野管理局林業試験場「日野苗圃」が設けられたことが樹林地の始まり。

ストーン牧師は戦前より長野県を中心に農村伝道を実践。戦後、農村伝道の拠点作りに東京近郊を探していた時に、故郷を思わせる美しい森、多摩平の森に出会い、中央農村教化研究所（現水道局付近）を作った。昭和 29 年 9 月 26 日、函館から東京に戻る時に青函連絡線「洞爺丸事故」に遭遇。身に付けた救命胴衣を外し、“日本は若い人が作り上げるのだ”といって青年に譲り渡した。洞爺丸は沈没し、牧師は遺体となって発見された（死者 1155 名）。多摩平の森を愛したストーン牧師の精神を次世代に引き継ごうと、森の一角に円錐形の屋根の小屋が建てられ、小屋の周囲に貼られた紙芝居には、ストーン牧師の話が紹介されている。

<活用学年と教科・道徳・領域等>

小学校 1・2 年 生活科「身近な自然の利用」

3 年 理科 「昆虫と植物の関わり」、 4 年 理科 「季節と植物の成長」

5 年 社会科「森林の働き」、

小学校 道徳「自然や崇高なものとの関わり」

小・中学校 総合的学習の時間

<参考文献> ・清流 news Vol.70「のびゆく日野」P9 ・小学校「美しい日野」P18
・インターネット 黒川清流公園（東豊田緑地保全地域）、多摩平の森

(5) 多摩平団地の今と昔



昭和 43 年ごろの多摩平団地

戦後の復興が一段落し、高度経済成長が始まる昭和 30 年代初め、発展する都市へ労働力として農村から人口が移動し、都市への人口集中が目立つようになった。都市への人口集中は大都市の深刻な住宅不足を招き深刻な問題となった。

そこで都市機能を周辺の都市圏に分散させ、住宅の大量供給と新産業都市の育成を目的として「衛生都市」の整備が始まった。

日野（当時南多摩郡日野町）では、衛星都市促進協議会を発足させ、住宅団地の誘致運動を行った。各方面の働きかけにより、昭和 32 年 3 月（1957）に「豊田地区区画整

理事業」が認可され、日本住宅公団による初めての大型団地の開発が日野で行われることとなった。総開発 40 万 2 千坪のうち団地分 20 万坪（2500 戸）の用地買収が行われそのうち、学校・公園・道路・下水道用地を無償で提供された。

昭和 32 年（1957）4 月日野二中校庭で豊田住宅建設地鎮祭が行われたが、同時に二中の近くでは公団住宅反対の地主・農民集会も行われた。その年の 12 月には、第一次工事が発注され、「多摩平団地」の建設が本格的に始まることになった。

昭和 33 年（1958）秋には 696 戸が竣工し、10 月に第一次入居が開始され、712 世帯が入居した。入居当時は、カギひとつで外出できることと、風呂付き水洗トイレが好評であったが、周辺が未整備で道路が舗装されておらず、雨が降ればどろんこで、長靴が必需品で、駅で履き替えて通勤したということだった。

しかし、緑が多く環境の良さは好評だった。家賃は 6 千 4 百円ほどで、当時としては給料の水準（1 万 8 千円ほど）と比べれば高い家賃であった。

昭和 34 年（1959）7 月には第二次、第三次、8 月には第 4 次、12 月には第 5 次と入居し、1468 世帯が入居した。昭和 35 年（1960）8 月に第 6 次、576 戸が入居し、総戸数 2792 戸（賃貸住宅、店舗付きは 36 戸）の「多摩平団地」が完成した。

このころになると商店ができはじめ、昭和 36 年に駅前第 1、第 2 が竣工し、昭和 37 年（1962）1 月には第 1 に 27 戸、第 2 に 33 戸と入居して駅前道路もきちんと整備され高島屋や、伊勢丹もあった。多摩平団地建設と同時期に町営下水道処理施設工事が始まり、昭和 33 年（1958）11 月に運転開始となった。昭和 35 年（1960）には町立病院の建設が開始され、昭和 36 年（1961）には内科、外科、産婦人科を含む 5 診療科で開業した。

こうして、「多摩平団地」建設に伴って、周辺の開発も進み、人口も急増し、昭和 38 年（1963）11 月 3 日、都下 12 番目の市として日野市が誕生した。団地の住民たちは、自治会活動を通して、住環境の整備、保育所の整備など住民生活の向上を目指して、団地住民による住民自治を実践した。集会活動、署名活動を行い、住宅公団や日野市を動かす住民運動の取り組みは、単に住民生活の向上にとどまらず、福祉、社会教育など幅広い分野まで広がった。活発な自治活動は、住民の親睦活動も盛んにし、住民運動会、納涼大会、もちつき大会、囲碁大会、文化祭と地域住民が文化的にも、民主的にもひとつになる新しい地域社会を生み出した。

「多摩平団地」誕生から約 40 年後の平成 9 年（1997）から立て替え事業の為の話し合いが行われ、立地条件の良さ、住戸面積や設備面の向上を目指し、恵まれた緑を生かした住居づくりが進められるようになった。住民自治の伝統は住民と日野市と住宅公団の三者がひとつのテーブルを囲んで話し合う「三者勉強会」という形で引き継がれた。眼で確かめ検討する見学会、多摩平団地の植栽が 40 年で大きく育った豊かな緑を引き継ぐための緑のワークショップ等、住民参加の形で行われた。

平成 12 年（2000）6 月に多摩平団地立て替えが開始された。平成 14 年（2002）3 月に第 1 期戻り入居が行われた。新しい多摩平団地は 6 階から 13 階の高層住宅で、空間が広く取られ、緑に囲ま

れた環境で、駐車場、集会場、住民の意見がとり入れられた新しい間取りの住居となった。第1期383戸の完成に引き続き、新しい暮らしと地域コミュニティの創造に向けて「多摩平団地」の立て替え工事は進められている。

＜活用学年と教科・道徳・領域等＞

- ・中学1年 地理 郊外の特徴を調べよう（市街地の広がりと土地利用の変化）、日本の人口分布（都市の発展と人口の増加）
- ・中学2年 歴史 高度経済成長で国民生活が変化する
- ・中学3年 公民 私たちと地域社会（地域の変ぼうと回復）

＜参考文献＞

- ・「日野市史（現代）」
- ・「多摩平の森」
- ・「たまだいらー多摩平自治会20年史」
- ・「街と時と人を緑で結ぶ」

(6) 百草周辺の文化財

高幡不動尊金剛寺



概要:古くから関東三不動尊として親しまれている。今からおよそ1100年ほど前、平安時代初期に慈覚大師円仁が、清和天皇の勅願により高幡を東関鎮護の霊場として山中に不動堂を建立し、不動明王を安置したのを始まりとしている。境内には、室町時代に作られた「仁王門(重要文化財)」、「不動堂」及び「不動明王」、「大日堂」及び天井に描かれている「鳴り竜」、また、新選組の近藤勇と土方歳三について書かれた殉節両雄之碑など、数多くの文化財が残されている。

<主な文化財>

・不動堂(重要文化財)

当初山中に建立されたが、建武二年(1335)8月4日の大風のため倒壊したため、康永元年(1342年)現在の場所に移し建てられた。東京都最古の文化財建造物である。丈六不動三尊が安置されているが、これは平成12年から14年にかけて行われた1000年ぶりの修復作業の際、不動明王像不在のため、平安後期の様式を忠実に造立された身代わりの本尊として新たに創られた新丈六不動三尊(新本尊作:北宗像)である。

・仁王門(重要文化財)

室町時代に作られ国の重要文化財に指定されている。仁王門は当初楼門として計画されていたが、途中で計画変更され上層の主要部を覆うような形で屋根がかけられ近年まで外観は単層であった。昭和34年解体復原修理の際楼門として復原され屋根も銅板葺きに変えられた。仁王尊は室町時代の作、楼上の扁額「高幡山」は江戸時代初期の運徹僧正「号泊如」の筆

・丈六不動三尊(重要文化財)

平安時代につくられる。足利時代の高幡不動尊は「汗かき不動」と呼ばれて鎌倉公方を始めとする戦国武将の尊崇をあつめ、江戸時代には関東十一檀林に数えられ、火防の不動尊として広く庶民の信仰をあつめた。

・鳴り竜天井

境内の奥、金剛寺の本尊大日如来をまつる大日堂の天井に、大日如来を守るために描かれた。鳴り竜の天井の下、中央で柏手を打つと鳴動して竜が鳴り願いをかなえてくれるといわれている。

＊鳴り竜の伝説については後述



・殉節両雄之碑

京都市中見回りに当たった新選組局長近藤勇昌宜(現調布市出身)と、副長土方歳三義豊の顕彰碑である。二人は時代の変革の中で、最後まで徳川幕府に対する節義を守り、朝敵の名を冠せられたまま維新の激流の中にその姿を没していった。碑文は小野路村(町田市)の小島為政が起草した「両雄士伝」をもとに、仙台の儒学者大槻盤溪【おおつきばんけい】が撰文し、篆額は当初徳川慶喜に依頼した。しかし、慶喜は碑文を読み落涙したが揮毫に応ぜず、元京都守護職松平容保が揮毫した。碑文は約1千600字、近藤・土方と親交のあった元幕府の侍医松本順が書いている。

（略）

その昔幕府が羽村に上水用の堰を設け、その水をはるか江戸まで引いて百万の人々の生活に役立たせたが、それは大変立派な事業であった。（略）

昨年、武揚らが朝廷に書（和平の）を奉ったおりに、義豊はその事を憂え、硬い表情で「私がさきごろ昌宣と死を共にしなかったのはもっぱら慶喜公の無実の罪をそぐ日のあることを期していたからである。今このような状況になってしまった以上、いさぎよく戦死するだけである。仮にゆるやかな処分によって命を永らえたとしても私はどうして再び地下の昌宣と顔を合わせることができだろうか」と語ったので、それを聞いてた人達はその言葉に涙を落としたという。

私はこう思っている。高幡山金剛寺は霊峰に位置し清流が近くを流れる景勝の地である。前の住職である賢雅和上は近藤・土方の忠義の心がすばらしいことを追念して、佐藤俊正・糟谷良循・土方義弘・本田定年・橋本政直・近藤勇五郎等と協議し、二人の招魂碑を境内に建てて冥福を祈りたいと考え、私に碑の撰文を依頼された。

（略）

明治九年歳次丙子春四月

従四位

正五位勲二等

松平容保 篆刻

松本 順 書

大槻清崇 撰

内藤慶雲 刻

* 鳴り竜の伝説

今からおよそ 200 年ほど前、徳川十一代将軍のころであったという。高幡金剛寺では、本尊の大日如来をまつるために、大日堂という本堂を建築中であった。その時の住職や壇家の人々が集まって、お堂はできたが天井をどうするか、相談をしていた。ある時、旅人が訪れこの話を聞いた。

旅人は、

「私は、田公実(でん・きみざね)という狩野派の絵かきだが、ひとつその大天井の絵をこの私にかかせてくれまいか。大日如来さまを守る竜の絵をかきましょう。」

と持ち出した。住職や壇家の人々はよろこんで頼むことになった。

翌日から、公実は 24 畳敷きの天井にはる大画板に竜の絵をかき始めた。昼となく夜となくかき続けて、数日たらずで立派な竜の絵ができあがった。その竜は、今にも火をふきそうな目で四方八方をにらみまわし、まるで生きているかのようにすばらしいできばえであった。あとは、まき雲も描きこめば完成するだけとなった。しかし、公実はまき雲を描こうにも本堂が完成していないので退くつのあまり、ぶいとどこかへ出かけてしまい、何日も帰ってこなかった。

やがて、本堂もほとんどできあがり天井画の完成を待つばかりとなったが、公実はいっこうに帰ってこなかった。寺の住職も困りはてて、ひたすら公実の帰って来着するのを待っていた。

そんなある日、新築された本堂の掃除をしていた小坊主が、ふと天井を見上げると。何といつの間にか竜が天井に上っているではないか。おどろいた小坊主は、あわてて往職のところへかけこんだ。住職や他の坊さんたちも本堂にかけてみると、画板からぬけ出した竜が、じっと下をにらんでいた。そこに公実が戻ってきた。天井を見上げた公実は、天井に、上った竜に、いまさらまき雲を描くことをあきらめて、絵筆をかたづけると、ぶいと寺を出ていった。

今でも大日堂の天井には、まき雲のないはだか竜が、生き生きとした姿を見せている。また、「八方にらみの竜」ともいわれていて乱下からあおいで見ると、どの方向からみても、竜の目が自分をにらんでいるかのように見えるからである。竜の下で願い事をして手を打つと竜は身をふるわせて答えてくれる。

そこで、「願い事が成る」ということから「鳴り竜」とも言われている。

百草園



概要:江戸時代の享保年間（1716年～）、小田原城主大久保侯の室、寿昌院殿慈覚元長尼が徳川家康の長男・岡崎三郎信康追悼のために松連寺を再建し、それに伴ってつくられた庭園。また、園内の有名な寿昌梅は寿昌院殿慈覚元長尼がこの時自ら植樹したと伝えられている。明治維新の時、廃仏毀釈運動で廃寺となり荒廃していたが百草村出身の横浜生糸商人青木角蔵の手に渡り、青木は修築して百草園として一般に公開した。開園日は明治20年（1887年）4月3日、当日はあいにくの雨天であったが、花火を上げて興を添えた。

百草八幡宮



概要:百草八幡宮は百草園の南方の丘の上にあり、東方から石段百段余の道がある。境内には樹齢何百年もの椎檜の大木が偉容を誇り、その深厳さを示している。

この八幡宮は古くは正八幡宮と称し、冷泉天皇の康平5年（1062年）に源頼義が奥州征伐の際、戦捷を祈り社殿を再建したといわれている。現在の社殿は、八代将軍徳川吉宗時代寛保4年（1744年）2月19日の修復にかかるものとされている。社殿の様式は八幡造に属するもので拝殿は入母屋造、向拝つき石の間に本殿と続き、総体としては権現造りの形式が混じて居り、本殿はしっかりした覆屋でかこまれている。

百草八幡宮の祭神は応神天皇を中座とし、神功皇后と武内大臣を祀っており、それぞれ木像が奉安され、ほかに幾体かの木像が納まっている。建久3年（1192）には源頼朝武運長久を祈願した太刀一振の奉納があった。

高幡城



概要:高幡城そのものについて書かれた史料はほとんどなく、城の具体的な沿革は不明とせざるをえないが、高幡の地に近接する分倍河原から立河原にかけての一带が、室町期にしばしば大きな合戦の舞台となったことと、城地の地形的要害性や地の利の良さを考えあわせれば、金剛寺の裏山に比較的早い時期から見張所のような軍事施設がおかれたことは想像できる。戦国時代には、後北条氏の勢力が武蔵に及ぶようになっていることから、後北条氏側の前線基地として高幡城がなんらかの形で利用されていたと考えることができ

る。

多摩動物公園



概要:昭和20年(1945年)8月15日、戦時中の食糧難と空襲に耐えて、辛うじて生き残った上野動物園の動物たちは、ほ乳類34種135点、鳥類57種129点、は虫類5種14点、合計96種278点であったという。

同年10月、当時の古賀園長が軍隊から復員した。園長は荒れ果てた動物園を目の前にして、再建を考えた。それはもっと豊かな自然の中の動物園であった。

それを知った当時の七生村(昭和33年日野町と合併)の人々は、動物園のために程久保の内の多摩丘陵の一隅、28ヘクタ

ールの寄付を申し出た。

この申し出に喜んだ古賀園長は、早速多摩自然動物公園の設営に着手した。それまでの動物園の経営は、珍しい動物を集めたり、交配による変種を作り出す事に重点が置かれていたが、ここは丘あり、湧水池ありの絶好の自然条件にあり、この中で動物たちを自然に飼育し、人々も共に楽しめる動物公園が設立されることになった。

昭和33年5月5日の子供の日、多摩動物公園が開園した。この日はすばらしい晴天に恵まれ、開園を待つ子供たちが早くから集まり、門前には長い行列が続いた。この日動物園側は園内の案内係を30人配置したが、近郷近在ばかりでなく、都心や地方からも繰り出した家族連れで、園内はたちまち人、人、人で埋まり、案内係は迷子係となる有様であった。

開園当時は高幡不動駅が最寄り駅で、そこから動物公園まで歩いたが、細い道は行き帰りの人々で埋まり、周辺のあぜ道まで人があふれた。そればかりか帰りの時間には、京王線の切符が売り切れ、ついに電車に乗れない人たちも出て、仕方なく高幡から中央線の日野駅を目指して歩く人たちも多かったという。

この時の入園者は20万人とも21万人ともいわれている。現在も毎年子供の日が入場無料であるが、その後はこの時の混雑は見られない。当時の人々がいかに動物園に夢を描き、期待を寄せていたかが分かる。

現在の多摩動物公園は、次々に拡張され、52.3ヘクタールと開園当時の倍近くなって、アジア園、オーストラリア園、アフリカ園、昆虫園が整備された。電車も多摩動物公園駅まで延長され、拡張された道路のサクラ並木は、日野市内でも有数のサクラの名所となっている。

<活用学年と教科・道徳・領域等>

4年 社会科 「地域の発展に尽くした人々」

6年 社会科 歴史学習全般 総合的な学習での社会科の発展学習

百草台小学校の周辺の地域には、現在もなお残されている文化財が多く存在している。それらは、あまりにも身近にあるために、認識はしているが、多摩動物公園が山に作られた理由を初め、そこに工夫や努力があったことについて子どもは見落としていることが多い。

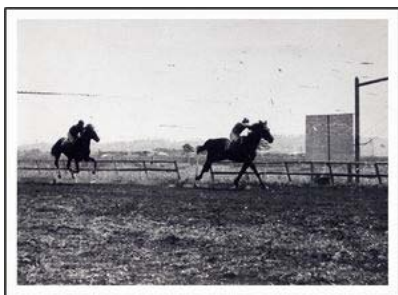
そこで、文化財が作られた経緯や役割について学習することを通して、改めてそのものの価値に気付いていけるのではと考え教材化した。

<参考文献>

- ・ ひの史跡・歴史データベース(ホームページ)
- ・ 日野市観光協会ホームページ
- ・ 日野市史

（７）多摩八王子競馬場

<概要>



多摩八王子競馬場の起源は大正時代に南多摩郡小宮村中野で神社の祭礼の余興で始まった「お祭り競馬」と言われている。昭和３年に競馬施行許可を得て八王子市中野上町付近（現在の八王子市役所裏手）に馬場と建物が新設されて競馬が始まった。現在の日野市旭が丘付近に移転されたのは昭和８～９年頃である。施設が手狭になり八王子市中野上町から移転先を求めているところ、八王子市横山村、八王子市横川、小宮村北大谷、小宮村西中野字甲の原の４カ所が候補になったが、小作人側から死活問題になりかねないと大反対

され、最終的には日野市新田の栗ノ須（高倉）に決まった。新競馬場は総面積８万坪、一周１６００メートルの本格的なものであった。一日の競馬場入場者は多いときで五万人を越える人出があったそうである。競馬場までの交通は日野、豊田、東八王子（現「京王八王子駅」）から乗り合いバスやハイヤーが行き交い、乗客の奪い合いだったらしい。

高倉に移転後も順調に競馬が開催されていたが、時局が次第に悪化し、昭和１４年には、「軍馬資源保護法」が公布され、従来行われていた競馬は「鍛錬場競争」と称するものになってしまった。鍛錬は競馬場で行う競争と集合場所を決めて山や川を歩いたりするものがあった。軍用となるために駄馬は荷物運びに、競走馬は将校達の乗馬用としたものらしい。平山在住の若衆が騎手をつとめ、平山の農家で飼われていた農耕馬も鍛錬馬競争に出走した。

戦後、昭和２３年に「新競馬法」により地方競馬の主催者は東京都へ移管され、都営競馬として開催された。昭和２５年には大井競馬場が新設され、八王子競馬場での都営競馬は昭和２４年１２月を最後に閉鎖され、２１年間続いた『多摩八王子競馬場』としての使命は終わった。

その後、八王子競馬場跡地は牧場として再スタートし、競走馬の育成、調教が行われた。昭和２９年には騎手教養所（講習所）が開設した。昭和３７年には騎手学校が開設されたが、昭和３９年１１月に栃木県塩原町へ移転し、昭和４０年に八王子牧場もすべてが廃止となり、３７年の歴史を終えた。

<活用学年と教科・道徳・領域等：中学１年 社会科>

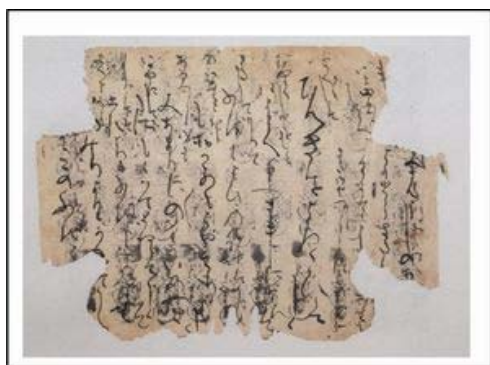
現在の日野市旭が丘～平山の地区は昭和３０年代後半まで畑や雑木林で人家がほとんどない状況であった。競馬場関連の施設がなくなり、その後の都市計画によってきちんと区画整理され、工場群と住宅群に分かれた。この時期に生徒の親の年代がこの地に移り住んできた。つまり、生徒の親たちはこの地で生まれ育った割合は非常に少ないと考えられる。生徒のほとんどは日野市で生まれ育ったのだが、親から郷土についての情報を得る機会は少なくなる。かかる状況では郷土への知識・関心が希薄になりがちになる。

そこで、この地に競馬場がつけられたことを題材に取り上げ、郷土の歴史的背景に興味を持たせることの意義は大きい。そして、町の発展に関する経緯や課題を見つけさせ、自ら調査し、自ら解決の手だてを考えることによって、自ずと郷土への関心が高まり、愛着も深まらだろうと考えた。

<参考文献>

- ・「聞き書き・日野の昭和史を綴る」（日野の昭和史を綴る会）
- ・「旭が丘小学校十周年記念誌」

(8) 中世の武士 ー落川遺跡と高幡不動の胎内文書ー



高幡不動の胎内文書

概要：かつて日野市内の低地(沖積地)は、多摩川や浅川の氾濫原で人々は居住できなかったと言われていた。しかし、近年の発掘調査などにより、台地上よりむしろ沖積地に人々の生活の拠点のあったことが判明してきた。特に、中世については遺跡の発掘や高幡不動の胎内文書から武士の実態が明らかになってきた。

①平安時代の末期から、日野では武士団が形成された。11世紀後半から12世紀初頭にかけて、教科

書によく掲載されている『一遍上人絵詞』をもとにした武士の館(周囲には田が広がり、堀や板塀で

囲まれている)と類似したものが、落川・一の宮遺跡などから発掘されている。ここからは、鉄製の農具(クワ、カマ、スキなど)や武具(矢先、刀など)、馬具(轡、焼印など)も発掘されている。これらの遺物から当時の武士たちが農民を集め、ふだんは主に農業に従事し、炭を焼いたり製鉄をしたり馬を飼ったり比較的大規模な経営をしている。そして、いざ事件が起これば武装して馬にまたがり、下人を連れて財産を守るために行動するといった生活がうかがい知れる。

②また、高幡不動の仏像の胎内から、暦応2(1339)年8月から翌5月にかけて山内紀之という武士が戦場から日野に住んでいた家族に宛てた手紙が発見されている。手紙の内容から、山内紀之は北朝の足利尊氏の御家人高師冬に従い、南朝の北畠親房との戦い(常陸合戦)に参加したことがわかる。出陣に関する費用は自弁であったが、急な出陣だったらしく戦費がないので僧侶から5貫文借りている。また、年貢を納めない農民の作物を差し押さえるよう指示したり、戦場での携帯食料である干し柿や搗栗(かちぐり)を届けるように連絡したりしている。さらに、戦場では死者が続出する中で、人の馬や兜を借りて戦っている苦しい様子や今後の家族のことを心配する気持ちも記され、武士の実像に迫る全国的にも貴重な史料である。

<活用学年と教科・道徳・領域等：小学6年 社会科「武士の世の中と生活」>

主な学習の流れは、次のようになる。まず、琵琶による『平家物語』の弾き語りを聞き鎌倉時代の文化に触れると共に、平山季重のことを知ることから、武士について学習課題をもつ。そして源平合戦や平山季重、武士について調べる。さらに、当時の武士が戦いに備えながらも、ふだんは農業に従事していたことを遺物や社会人講師の話を聞いて理解する。また、武士がなぜ命をかけて戦ったのか(山内紀之の手紙、土地を介してのご恩と奉公の関係)考え、鎌倉幕府の政治がどのように行われたのか調べる。最後に、元との戦いにより、幕府と武士との結びつきが崩れたことを理解する。

社会人講師：真砂早苗氏、梅田和子氏(平家琵琶)、福田健司氏(東京都学芸員)

<参考文献>

- ・『日野市史通史編二(上)』日野市 1994年
- ・『吾妻鏡』
- ・『日野市史 史料集 高幡不動胎内文書編』日野市史編さん委員会 1993年
- ・日野市立日野第七小学校『校内研究紀要』1996年

(9) 坂西横穴墓群 (さかにしおうけつぼぐん)

所在地 大坂上1丁目7番地の2

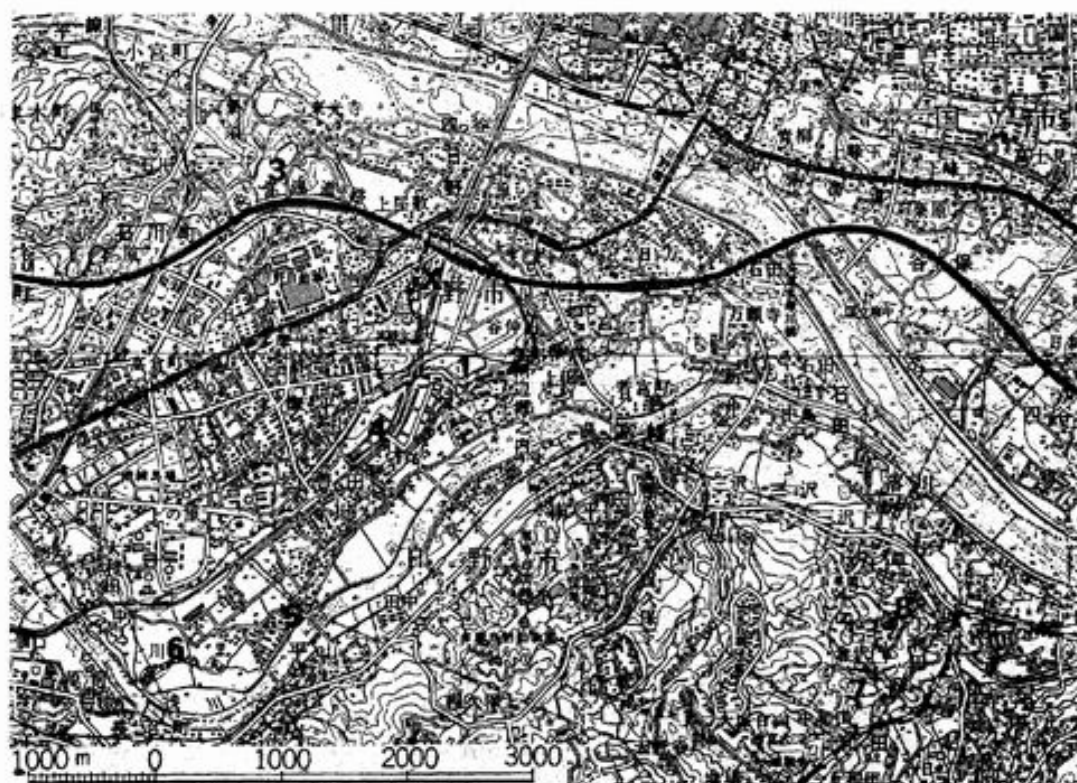
1. 概要

年代 7世紀～8世紀

日野駅西側から中央線沿いに南南西350mに位置する。道路整備に伴う昭和49～50年の発掘調査後、1号墓のみを保存し残りは埋め戻され遺跡上の道路脇に案内板が立てられた。案内板には周辺地形・構造図が描かれている。

多摩川と浅川が合流する氾濫原の西にある日野台地東端に位置する神明上地区東北端に位置する。ここは古くは、台地に入り込む谷戸があった場所で、現在谷戸を切り開いて中央線が通っている。中央線開通以前は、日野台地の伏流水がこの谷戸に深い湿地をつくり、矢ノ川と呼ばれる小川が多摩川へ流れ出ていた。

墓群は、谷戸の奥まった標高90mの東面する崖につくられた。鉄道開通工事により、この谷戸は埋め立てられたので横穴墓は線路脇に位置しているが、当時は谷戸の湿地面より相当高い場所にあったと思われる。



坂西横穴墓群の位置と周辺遺跡分布 (古墳～平安時代)

- | | | |
|-----------------|--------------------|------------|
| …点線内は神明上地区 | ×、坂西横穴墓群 | 1. 梵天山横穴墓群 |
| 2. 谷ノ上横穴墓群 | 3. 東光寺上遺跡 (七ツ塚古墳群) | |
| 4. 吹上遺跡 | 5. 平山橋遺跡 | 6. 西平山古墳群 |
| 7. 万蔵院台遺跡 (古墳群) | 8. 仁王塚 | |

2. 神明上地区と付近の遺跡（○数字は前ページの遺跡分布の番号を示す）

①②神明上地区

坂西横穴墓のある神明上地区は、標高100mの下末吉ローム層を基盤とするほぼ平坦な台地で、北・東・南の三方を多摩川と浅川の沖積地に囲まれている。

東へ2.5kmの所で多摩川と浅川が合流する。台地の端は、約30mの標高差の傾斜地となって沖積地に下る。

市役所付近には、縄文時代中期の敷石住居を伴う集落が見られる。台地の南側は、浅川の沖積地との間に河岸段丘が形成され、台地と河岸段丘との間は15mの標高差の崖になっている。

この地区では、弥生時代の住居跡、古墳時代から平安時代にかけての集落跡が発見されている。台地南側の崖下に沿って流れる黒川は、浅川の沖積地より一段高い所にあって洪水の心配がなく、水量も豊富な湧水が水源となっていることから、当時の水田としては絶好の場所であり、生活を支える生産の場を確保した人々が神明上地区の台地に集落を構えたものと考えられる。

③東光寺遺跡

多摩川と谷地川の合流地点右岸の日野台地上にある。七ツ塚古墳群を中心に、縄文・古墳時代の遺物が広範囲に散布している。

七ツ塚古墳からは、横穴式石室・直刀1本・刀子2本・鉄鏃4本が出土している。他に女性埴輪も出土している。

④吹上遺跡

浅川古岸の河岸段丘にあり黒川を中心に営まれた遺跡。縄文時代の住居跡11基・弥生時代の住居跡2基・古墳時代住居跡3基が出土している。

⑤平山橋遺跡

吹上遺跡と同じ段丘面にあり、吹上遺跡の南南西1.5Kmの浅川左岸にある。

縄文時代2基・加曽利期7基・古墳時代1基の住居跡が出土している。

⑥西平山積石塚古墳群

平山橋遺跡と同じ段丘面にあり西南西1Kmの浅川左岸に位置する。土師器・須恵器の破片が多量に散布している。

⑦万蔵院台遺跡

市の東南端、多摩市と隣接する小丘陵に位置する。縄文時代6基・古墳時代1基の住居跡が出土した。また、横穴式石室を有する古墳3基とともに金環・直刀・鉄鏃なども発掘された。

⑧仁王塚

万蔵院台遺跡の北側。経筒4本・直刀若干・鏡1・白磁合子1・鉄鏃1が出土している。

3. 横穴墓の特徴

1・4号墓	・玄室が界石により前室と後室に分かれ、界石部分がくびれて瓢箪型 ・1号墓に白い粘土装飾、線刻、盗掘時の元号らしき「永仁」の文字 ・4号墓に線刻、「永仁」「人大山」の文字
5・6号墓	・玄室から左右に張り出した両袖があり、前壁が明瞭
3・7号墓	・羨道と玄室の区別が不明瞭 ・側壁が奥壁に向かって広がる無袖羽子板状

※2号墓については、発掘当時に崩れていて詳細不明。

○横穴墓で白色塗布された1号墓の例は極めて貴重。

羨道の一部より前・後室の側壁、天井のすべてにわたって厚さ2～3mmの白色

粘土が塗布されていた。全体にハケ状の用具で塗られたもので明瞭にハケ目も残っていた。白色に化粧塗りされた横穴墓であった。

従来、古墳時代後期の横穴式石室の玄室（横穴式石室の主要部分で棺を納める場所）壁面などが白色に塗布されていた例は知られていたが、横穴墓では珍しい。

4. 出土人骨

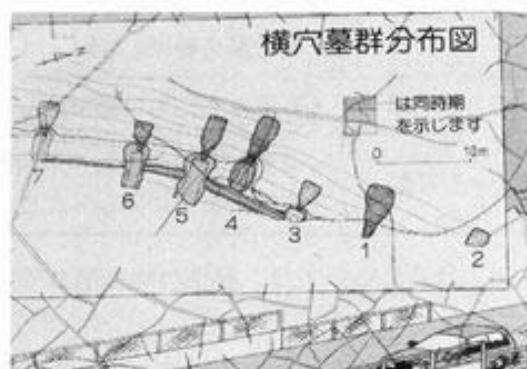
横穴墓	最少個体数	年齢・性別	備 考
1号墓	1	不明	小骨片1点のみ
2号墓	2	成人男性？ 幼児	断片 歯のみ
3号墓	2	壮年女性 熟年女性	保存良好・身長149cm 保存やや良
4号墓	1	不明	エナメル質破片のみ
5号墓	3	壮年男性 成人女性？ 幼児	身長約161cm 断片的 主に歯
6号墓	5	壮年女性？ 成人男性？ 成人男性 成人不明 幼児	身長約151cm 下肢骨のみ 下肢骨 歯のみ 歯のみ
7号墓	1	不明	断片

5. 写真資料

現場遠景（中央線を挟んで南側より）



案内板 拡大



坂西横穴墓群出土人骨



坂西横穴墓群 No. 3-a 成年、女性
（国立科学博物館
人類研究部人骨標本）

1号墓の前室と羨道（発掘時撮影）



（後室より羨道を望む）

6. 参考文献

「久保常晴氏編『武蔵坂西横穴墓群』雄山閣出版」昭和51年刊

(10) 平山陸稲と林丈太郎



宗印寺境内の墓碑

豊田にあった東京府立農業試験場第一分場でさらに改良され「平山」と命名された。

この品種は東京都の奨励品種にも採用され、しだいに関東近県から日本中へと広まっていった。特に中国地方の砂地や乾燥地で作られた。

当時の陸稲栽培に大きく貢献した丈太郎は、大日本農会や南多摩郡農会から表彰され功績をたたえられた。

昭和2年（1927）52才にて他界。墓は、平山の宗印寺にある。

昭和28年 宗印寺に墓碑建立。「林丈太郎ここに眠る 品種改良家 陸稲「平山」を創む また平山の名を全国に広めたり 墓石はいとも小なり されどその功績はいとも大なり」と丈太郎をたたえる言葉が刻まれている。

<活用学年と教科・道徳・領域等>

4年 社会科「地域の発展に尽くした人々」（副読本「のびゆく日野」P106）

3～6年 総合的な学習の時間 「農業体験学習」

道徳 1・(2) 不とう不屈、希望、勇気 4・(4) 勤労・社会奉仕

<参考資料>

- ・副読本「わたしたちの日野」
- ・広報「ひの」
- ・日野市史 通史編三 近代（一）
- ・平山小学校 副読本「ひらやま」

<概要>

林丈太郎は、明治8年（1875）平山村に生まれた。

稲は、中国の長江下流域の湿原が原産であるため、水田で栽培（水稻）するのが適している。しかし、水を得ることが不便な所ではやむをえず畑で栽培する陸稲を栽培することになる。

陸稲は、干ばつに弱く、かつ病気も発生しやすいため畑での栽培はむずかしい。しかも当時は、品種改良の歴史が浅いため、水稻に比べると収量や味が劣るのが普通であった。

明治44年 当時栽培していた陸稲「凱旋」の稲穂のなかに一株だけ穂先が紫色で成熟の遅い株があるのを見つけた。

丈太郎はそれをもとに翌年、翌々年と種をまき、収穫を重ね新品種の開発に努めた。その結果、味がよく、干ばつや病気に強く、収穫量の多い、栽培しやすい品種を作り出すことに成功した。

この新しい陸稲は「丈太陸稲」と呼ばれ、たちまちのうちに近隣の農家に知れわたった。「丈太陸稲」は、

(11) 自由民権運動と日野

<概要>

幕末において日野出身である新選組の土方歳三、井上源三郎などを仲立ちにしたネットワークが豪農層の間で形成された。

多摩の豪農層は自ら武術天然理心流を学び、激動の時代にあつては、農兵隊、甲陽鎮武隊、彰義隊等にと加わり、幕府崩壊後は、官軍に追われ、捕らわれ、許されるという経緯の中で新しい時代を迎えている。

こうした豪農層のネットワークは明治になると、自由民権運動という形でのネットワークに発展し、多摩地域における自由民権運動の指導的役割を担った。

明治20年の12月に保安条例が公布施行され、自由が拘束されるようになった。

日野における中心的な自由民権家としては、日野宿の日野信蔵（義順）、高木吉造、三沢村の土方啓次郎、高幡村の森久保作蔵があげられる。

	日 野 信 蔵	高 木 吉 蔵	土 方 啓 次 郎	森 久 保 作 蔵
主な経歴	1839年日野宿に誕生。八王子千人同心の日野嘉三の長男。大國魂神社で行われた野試合では、土方歳三、井上松五郎等とともに活躍。千人頭の河野仲次郎のもとで組頭を務めた。官軍に破れ捕らえられ、許された後、日野学校の初代校長に迎えらる。明治12年には日野宿会議長になる。	1854年日野宿に誕生。父は農業のかたわら質屋を経営し、天然理心流に励み、幕末には日野の農兵隊に参加、甲陽鎮撫隊に参加。明5年にアメリカにわたる。日野銀行設立発起人、明治17年には取締役。明治20年には日野煉瓦工場の工業監督員となる。	三沢村に生まれる。幕末には名主を補助する組頭。潤徳小学校設立のときは世話役に任命される。	1855年高幡に生まれる。小石川の詩文添削所で学問とともに政治的関心を育む。民権家・町田の石坂昌孝の下に出入りし、ともに行動する。
明治14年 (10月に自由党結成)	石坂昌孝の呼びかけで武相懇親会が開かれ、これに参加。		府中高安寺で三多摩懇親会を開催、石坂昌孝と並んで発起人となった。	
明治15年			神奈川県議会議員に選出される。(明治18年辞職)	民権運動の闘士として自由党に入党。
明治16年	天野清助らと自由党入党。	自由党に入党。党の資金募集に100円を拠出。日野組の通信員となる。宝泉寺で政談演説会を開く(会主)。		
明治18年	神奈川県議会議員に選出される。		自由党に入党。三沢組の通信員となる。党の資金募集に100円を拠出。日野の共融会社の大株主として、政治活動の資金援助を行う。	

明治 20 年 (保 安 条 例施行)	2 0 年代に入って、政治 から地方産業の振興に 転換。	三大事件建白運動(地租 軽減、言論集会自由、外 交失策の回復)有志大懇 親会に出席。		政治結社神奈川通信 所を設立。
明治 23 年				神奈川県議員に選 出
明治 26 年				東京府議員に選出
明治 29 年	扶桑社設立、社長に就 任。大日本農会八王子支 会の設立にともない幹 事に選出。			
明治 33 年	日野町長に選出。			
明治 37 年				国会議員に選出
	1916 年 77 歳で他界	1893 年 39 歳で他界	1922 年他界	1926 年 71 歳で他界

<活用学年と教科・道徳・領域等>

小学校 6 年 社会科「明治維新をつくりあげた人々」
中 学 校 社会科 歴史

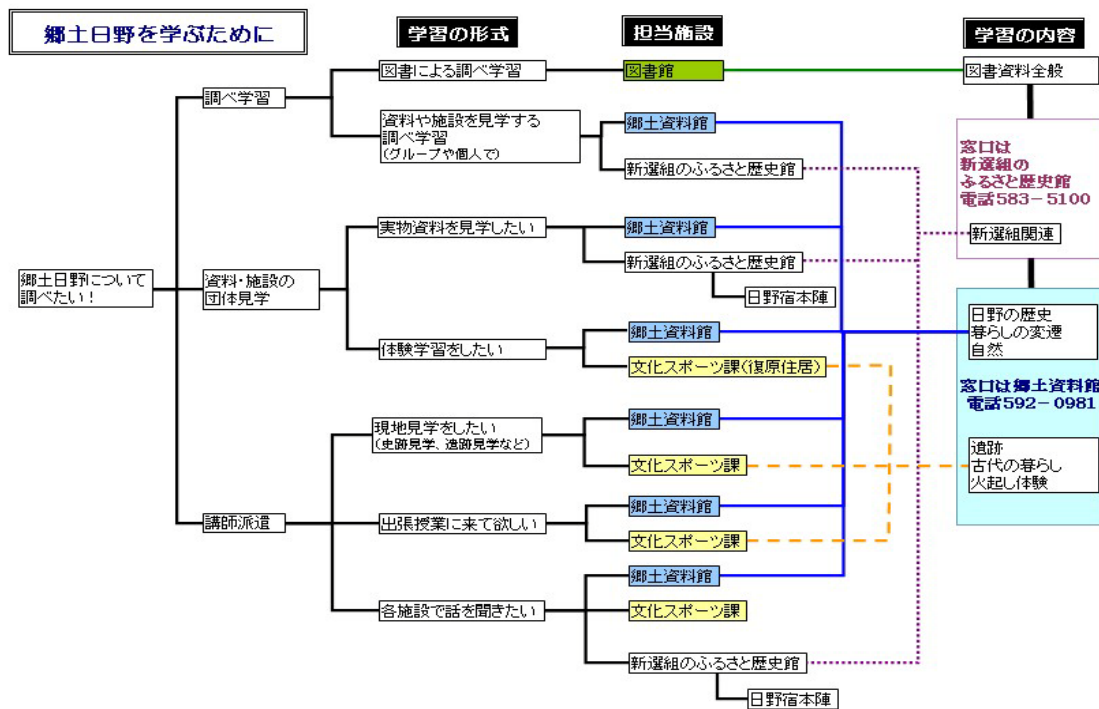
<参考文献>

- ・ひの史跡・歴史データベース (http://www.c-hino.org/hino_history/J/index.html)
- ・日野市史
別巻 市史余話
平成二年 三月 三十一日 発行
発行 日野市史編さん委員会

2 郷土資料館、図書館などにある郷土資料の活用と活用例

◎郷土学習情報蓄積機関系統図

郷土学習を行う際に、地域の情報が集積された図書館や博物館は非常に便利な施設である。それぞれの施設の特長を把握して利用すれば、目的にあった郷土学習が効率的に行える。図書館、新選組のふるさと歴史館、郷土資料館、文化スポーツ課の目的に応じた使い分けを以下に図示した。また「郷土日野」を知るための訪問先はこれらの施設だけでなく、「日野市環境情報センター」のほか日野市役所の各部署、民間の研究機関、大学、高校、市民など数多くある。以下の施設は郷土学習のための入口となり、他施設などの情報源ともなり得る。



日野についてすべてのジャンルを調べたい場合

図書館 図書、新聞、地図など紙に書かれた資料・図書を取り扱う。日野の地域資料がある。開架の図書は自由に手にとって調べられる。図書検索・借用が可能。質問をもとに図書の調べ方を教えてくれる。調査・資料収集を行う。

郷土資料館 昔の道具や標本など実物の資料。調査資料や図書、写真などの資料。日野の地域資料がある。学校へ資料の貸出しを行う。調査資料や図書資料などは原則閲覧、職員が来館者の希望を聞いて提示する。展示解説、出張授業を行う。調査・資料収集を行う。

特定のテーマについて調べたい場合

文化スポーツ課文化財係 土器などの考古資料を収蔵し、復元住居の管理を行っている。復元住居での解説や出張授業を行う。調査・資料収集を行う。※郷土資料館の学芸員は文化財係も兼務している。

新選組のふるさと歴史館および日野宿本陣 新選組について取り扱う。実物の資料展示や日野宿本陣建物内部を見学できる。展示解説を行う。資料収集・研究を行う。

(1) 復原住居を活用した授業例

日野市役所の南に隣接して広がる日野中央公園の南西隅に、復原住居はある。鉄柵で囲われ施錠されているため普段は自由に入出入りできないが、ほぼ毎月1回日曜日には誰でも入ることができる。学校からリクエストがあれば、臨時にオープンし、文化財担当職員による解説を行っている。

この復原住居は、日野中央公園建設に先立つ発掘調査で市庁舎前の入り口近くで発見されたものをモデルにしている。8世紀後半、奈良時代末から平安時代初めの竪穴住居である。竪穴部の大きさは間口4.5m、奥行4mで、当時としては標準的な大きさである。南側右寄りに入り口を設け、その真向かいの北側に煮炊きするためのかまどが作られている。地上部には低い土手（周壁）を作り、その上に草壁を立ち上げている。屋根も壁（かまど部分のみ土壁）も茅葺である。



この復原住居は授業にさまざまに活用できる。これまで明確に意識し目的設定して取り組んできたわけではないが、以下のようなねらいを挙げることができよう。①現在の住生活との比較を通して、「現在」が常に続いているものではないこと、歴史意識、歴史的思考力を目覚めさせること②地域に身近に遺跡が存在すること（日野中央公園一帯は神明上遺跡に包含される。）を知り、歴史を身近なものと感じるようになること③竪穴住居を実際に目にし、内部に入ってみて、竪穴部の復原はほぼ確定的だが、上屋構造については不確定な要素が多いこと、また何人住んでいたか明確にはなっていないことなど、現在の考古学の限界や今後の可能性を認識させ、考古学への興味関心を涵養すること④はじめて学ぶ歴史の授業の導入として、原寸大に復原された竪穴住居を五感を通して体感することで、学習意欲を強化すること。

見学授業では、まず復原住居の周囲を回って観察してみる。すると一部だけ土壁構造となっているのを発見する。また土手が周囲をめぐっているのにも気づく。こうした点を頭に入れて、住居の内部に入る。ずいぶん暗いことに生徒たちは戸惑いつつ、上屋構造やかまどを観察する。なぜ一部土壁なのか、またなぜ土手が周囲をめぐっているのか、解説者が生徒たちと議論する。やがて話題は住居から村の様子や生活全般へと拡散していく。そのやり取りの中で、現在の考古学的研究の到達点に基づく考え方を提示することになっている。また竪穴住居は縄文時代から平安時代まで継続することから、その歴史の中に、この復原住居を位置づけて説明している。

ただ、このような見学と生徒との口頭でのやりとりだけで一授業時間、生徒たちの興味関心を持続させるのは困難な場合もある。こうした場合には、たとえば、舞割り式火きり杵と臼を利用した火起し作業を体験させることにしている。また奈良・平安時代に限らず、市内遺跡から出土した遺物を持って行き、実際に触ってみるようなことも行っている。奈良平安時代にはおそらく行われていなかった舞割り式火起し法や各時代の遺物を見せることで、「時代」認識が混乱し、科学的な歴史学習からわき道へそれているという批判もあるだろう。そのことも承知の上で、五感で体感する経験が、小学校レベルでの歴史学習への動機付けとしては意味を持つと考えている。

(2) 中学校「調べ学習」授業例

選択授業で日野の歴史を調べることに取り組んでいる。今年度は調べ学習で生徒が取り上げた事項は、新選組、日野の昔話、日野クジラ、であった。図書室、パソコン室での調べ学習で、図書協力委員の協力もあり、昨年度より日野市関係の資料が少し増えたことで、生徒の学習活動がよりスムーズになった。郷土資料館との連携の面では、生徒が調べきれない事項について、郷土資料館学芸員に事前に送り、来校した学芸員から直接必要な資料や説明を生徒が受けることで、調べ学習が進んだ。特に日野クジラは郷土資料館が提供した資料が生徒に好評であり課題解決に役立った。日野の昔話も、良い資料が見つからずに苦労していたので、学芸員からの資料、助言は生徒の学習活動に大変宅だった。その後の取り組み意欲も向上した。このように郷土資料館との連携により学習活動の幅と学習意欲のさらなる向上がみられた。

(3) 小学校「古い道具と昔の暮らし」に活用できる資料例

小学校の資料館活用の事例では、「古い道具と昔の暮らし」についての事例が最も多い。今回は学校教育現場における「古い道具と昔の暮らし」の学習に活用できる資料を中心に紹介する。具体的に資料名をあげることで、「郷土資料館にはどのような資料がありますか？」といった疑問にも答えたい。なお、毎年開催している企画展「暮らしの道具 今・昔」の展示資料、収蔵展示室・体験学習センターにてほぼ常設されている資料の一部を以下に記した。収蔵資料すべてを網羅するものではないが、今までの活用事例から資料を選択した。

実際には、実踏に訪れた教諭が展示中の資料を選択するケースが多い。ここで紹介した資料は氷山の一角であり、資料の多くは収蔵保管されている。教諭の具体的な提案や希望をもとに学芸員が収蔵品からも資料選定を行うことが可能である。例えば、周辺地域で産出した化石、学区域で出土した遺物、自校ゆかりの文学者関連資料といった資料を今まで提供してきた。教諭と学芸員が共に知恵をだしあうことで、学校での資料活用はより幅広く考えられる。

実物資料を前にした際、児童の態度がどのようなであったか。使い方を友人とともに考え、資料をじっくりと観察してスケッチをし、説明がなくてもモノから仕組みや特徴を把握し、といったように生き生きと主体的に学習している様子が見られた。驚きや感動を与える本物体験のために郷土資料館の資料をご活用いただきたい。

企画展「暮らしの道具 今・昔」展示資料一覧 (開催期間：平成19年1月26日～4月8日)

昭和初期の日野市では、電気は主に電灯に使われており電化製品は普及していなかった。暖房や炊事に炭や薪が使われていた当時の日野の暮らしを振り返る。

暖房の道具：長火鉢、火鉢、箱火鉢、長火鉢、炬燵、猫行火、行火、湯たんぽ、十能、台十能、炭取り、ストーブ、懐炉

照明の道具：行灯、ランプ、灯明皿と油差し、提灯、龕灯（がんどう）、燭台

炊事の道具：杓子、鍋、釜、箱膳、お櫃、お櫃入れ、俎板（まないた）、七輪（七厘）、電熱器

装いの道具ほか：火のし、こて、炭火アイロン、初期の電気アイロン、現代の電気アイロン、盥、洗濯板、箱枕、薬箱、杓、杓切り、棒秤、文机、足踏みミシン、手回しミシン、ひな人形

そのほかの昔の道具 (収蔵展示室および体験学習センターなど)

農業・漁業：千歯扱き、足踏み脱穀機、くるり棒、篩、箕、唐箕、万石、手動扇風機、電動粃すり機（古いものではないが完動品）、肥桶、鋤、鍬、振りまんが、横槌、藁打機、縄ない機、わらじ、わらぞうり、蓑、荷車、背負子、桑切包丁、まぶし、毛羽とり器、糸車、座繰り器、箱めがね、雑魚 笄、鰻笄、モジ、瀬張網

調理や家電ほか：臼・杵、石臼、鍋、羽釜、セイロ、簡易かまど（新しいもの購入品）、扇風機、ラジオ、掃除機、トースター、教科書、謄写版、自在鍵、筆筒

正月飾りの作り方、わらじの作り方を A3 にまとめた。共にモノクロ A3 両面を提供、必要部数は各校で増刷を。「わらじの履き方」(カラー)：パネル貸し出し、または電子データで原稿を提供。

A collection of various objects, including a small wooden chair, a white bowl, a brown box, and several small metal and wooden items, displayed on a white surface.

A photograph of a museum exhibit. In the foreground, there is a large, ornate wooden bowl with a decorative pattern. To its left is a small table with a lamp. In the background, there is a display case with various items, including a small figure and a framed picture. The exhibit is set against a dark background with a colorful, abstract mural.

A photograph of a museum display. On the left is a tall wooden cabinet with glass doors, revealing various items inside. To its right is a wooden table with a decorative cast-iron base, upon which sits a vintage sewing machine. The background is a plain, light-colored wall.

※ リーフレット「小中学校のための利用案内」および、『「郷土日野」指導事例第1集』（平成17年度発行）にも利用案内や利用例を紹介していますので、ご参照ください。

(5) 参考文献 <「郷土日野の歴史学習のために」－日野市史の概要紹介－>

日野市の各部署が発行する書籍や冊子類は、郷土日野を学習するための参考資料として活用されている。中でも日野市史や史料集は内容が充実し、時代毎にまとめられた非常に基本的な参考文献である。また、日野市史関連調査資料（印刷物・写真など）は郷土資料館が引き継いでおり、これらの資料は調査研究、展示、問合せ対応などに用いられている。以下に日野市史通史編、別巻、日野市史史料集、五十子敬斎日記、河野清助日記の概要について紹介する。

※章および節（○数字で表示）タイトルは目次通りの語句を用い、下位の項目については一部改変・省略する。

<日野市通史編>

日野市史通史編一 昭和 63 年 3 月 31 日発行

[自然編] 第 1 章 自然環境 ①日野の地理的位置と地学、②日野の地形と地質、③日野の気象 /

第 2 章 日野の生物 ①日野の植物、②日野の動物

[原始・古代編] 第 1 章 旧石器時代 ①旧石器時代の概観、②市内の旧石器時代遺跡 /

第 2 章 縄文時代 ①縄文時代の概観、②集落と社会構造、③生産と交易、④信仰 /

第 3 章 弥生時代 ①弥生時代の概観、②弥生文化の東漸、③集落の展開と方形周溝墓 /

第 4 章 古墳時代 ①古墳時代の概観、②日野市域における高塚古墳成立と展開、③横穴墓の様相、④集落の展開 /

第 5 章 古代の日野 ①大化の改新、②律令制の成立と展開、③律令体制の衰退 /

第 6 章 古代から中世へ ①古代の郷と中世の郷、②小野牧、③中世成立期の多摩の武士

附編 板碑：板碑から見た中世の日野

日野市遺跡一覧：遺跡、文献

日野市史通史編二（上）中世編 平成 6 年 3 月 31 日発行

第 1 章 鎌倉時代 ①鎌倉幕府と多西郡の武士（平山季重、横山氏、日奉氏、高麗氏ほか）、②日野市域の荘園と公領（荘園と公領、船木田庄、真慈悲寺ほか） /

第 2 章 南北朝・室町時代 ①戦乱の中の武士たち（山内経之と常陸合戦、大石氏の多西郡支配、室町時代の動乱ほか）、②高幡高麗氏の得恒郷支配（高幡高麗文書ほか）、③高幡不動の再建と儀海（高幡不動胎内文書ほか）、④日野の中世村落遺跡（平山氏の遺跡、落川遺跡、南広間地遺跡、栄町遺跡、高幡城跡ほか） /

第 3 章 戦国時代 ①後北条氏の相模・武蔵進攻（北条氏照の城領支配、滝山・八王子城ほか）、②後北条氏の滅亡と八王子城領、③戦国時代の日野市域（高麗氏と平山氏、北条氏照の三沢衆史料・竹木伐採禁制文書ほか）

日野市史通史編二（中）近世編（一） 平成 7 年 3 月 31 日発行

第 1 章 江戸幕府の成立と日野 ①徳川氏の関東入国と日野周辺（在郷武士団、大久保長安、甲州道中と日野宿ほか）、②日野市域の支配形態（幕領の村、旗本領の村、寺社の村ほか）、③検地と村の成立（太閤検地、徳川氏の文禄検地、豊田郷の検地、文禄・慶長・寛永検地、日野市域諸村の村高・村役人ほか） /

第 2 章 宿場・農村の発展と新田開発 ①日野宿の成立と発展（江戸時代以前の交通路、甲州道中制定以前の道、甲州道中日野宿の概観、宿の機構ほか）、②日野宿と渡船場の経営（万願寺の渡しと日野の渡し、渡船賃ほか）、③享保期の新田開発（新田開発政策、武蔵野新田の開発、高倉原開発令、開発の経過、栗須新田と日野本郷新田、持添新田ほか）

日野市史通史編二（下）近世編（二） 平成 4 年 3 月 31 日発行

第 1 章 近世後期の日野市域 ①日野市域の概況（市域の村々、人口、年貢ほか）、②産業の発達（農業、養蚕、漁業、水車、商業ほか）、③日野地域と江戸（奉公、日野市域の産業と江戸、名所ほか）、④宗教と民間信仰（神社と寺院、富士講ほか）、⑤日野宿と助郷村（甲州道中、渡船ほか） /

第2章 近世社会の動揺と日野市域 ①寛政改革と市域の村々（天明の飢饉・一揆、宿駅制度の改革、家政改革ほか）、②関東における文政改革と日野市域（文化・文政期の農村社会、関東取締出役ほか）、③天保改革（商工業の発達、天保の飢饉、天保改革ほか）／

第3章 江戸幕府の解体と諸村の動き ①開国と日野市域（幕末の宿駅制度、開国ほか）、②幕府の滅亡と日野周辺（八王子千人同心、蘭学、農兵隊、武州一揆、土方歳三、新選組）③明治維新と日野（明治維新と八王子千人同心、幕末・明治維新期の家族と階層、神奈川県編入、廃藩置県ほか）

日野市史通史編三 近代（一） 昭和62年3月31日発行

[明治編]

第1章 明治前期の政治と社会 ①明治初期の地方行政、②地方三新法と日野、③自由民権運動のおこり、④民権運動と激化する事件、⑤自由民権運動の終息、⑥明治前期の経済、⑦明治前半期 災害異変／

第2章 明治後期の政治と社会 ①市制・町村制と日野、②東京府編入とその後の政治展開、③日清戦争、④日露戦争、⑤地方改良運動の諸相、⑥明治後期の経済、⑦明治後半期 災害異変／

第3章 明治時代の教育と文化 ①近代学校の成立と管理財政、②教師と生徒と学習内容、③明治後期の教育、④村の文明開化と文芸

日野市史通史編四 近代（二）現代 平成10年3月31日発行

[大正・昭和編]

第1章 大正期の日野 ①明治から大正へ、②第一次世界大戦と日野、③大正デモクラシーの波及、④第一次世界大戦の影響、⑤大正期の町村財政と農業、⑥大正期の交通／

第2章 昭和恐慌期の日野町と七生村 ①大恐慌下の民衆運動、②昭和恐慌期の町村の財政／

第3章 十五年戦争期の日野 ①「満州事变」前後、②「日中戦争」の時代、③アジア・太平洋戦争の時代／

第4章 都市化の進展と日野市の誕生 ①戦災と復興、②農地改革と町村合併、③都市化の進展と日野市の誕生

第5章 戦後教育の展開 ①戦後の教育改革、②六・三制の出発、③日野町・七生村の教育新事業、④日野町・七生村の合併と教育の整備、⑤都立高校の誘致と教育機関の開学、⑥社会教育の充実／ **コラム** 百草園と田山花袋、市内の京王線駅、日野煉瓦、甲武鉄道、中央線、日野駅の移転、平山ゴルフ場、鮫陵源、日野の空襲、多摩動物公園

日野市史民俗編 昭和58年10月31日発行

第1章 人の一生と儀礼 ①出生、②身祝い、③結婚、④死（葬式）／

第2章 衣・食・住 ①衣服、②食事、③住居／

第3章 生産・生業 ①農業、②養蚕、③漁撈／

第4章 年中行事 ①正月迎えの行事、②正月行事、③春・夏の行事、④秋・冬の行事／

第5章 民間信仰 ①村の信仰、②石仏と信仰、③屋敷神と同族神、④俗信と民間療法／

第6章 方言／

第7章 地名 ①旧郷村、②市内の字名・小字名一覧／

第8章 郷土芸能 ①唄、②芸能、③悪口言葉／

第9章 遊びとわらべ唄 ①遊び、②唄を伴う遊び、③わらべ唄／

第10章 昔ばなし／

第11章 神社と寺院 ①神社、②寺院

<日野市史別巻>

市 史 余 話 平成2年3月31日発行

第1章 自然環境と歴史のはじまりー自然と古代・中世の日野ー：地球の歴史と日野、ヒノクジラ・メタセコイアの化石、横穴墓、小説家江見水蔭と七ツ塚、中世の三つの郷、日野の板碑、高幡不動尊と僧儀海、北条氏照

第2章 甲州道中日野宿と助郷村々ー近世の日野ー：江戸時代の日野、開発と川欠、大久保長安、日野宿の役割・財政、村の生活と五人組制度、多摩川と鮎、日野宿の商人・職人、高倉原の開発、八王子中市の相場附、川辺堀之内村の人口、付け通り荷物と口銭、貨幣制度、関所、蜀山人と日野のそば、義民平藤治と茂右衛門、高幡村・豊田村の人口、岡ッ引き八五郎、日野の渡しを渡った人々、時の鐘の鐘つき料

第3章 「瓦解」と「御一新」ー幕末・維新の日野ー：百草村・宮村の人口、安政大地震、幕末の世相と宿村、土方歳三と新選組、天然理心流と程久保遥拝所、『河野清助日記』、『復古記』、孝婦顕彰、日野郷学校、改暦と正月行事

第4章 日野町（宿）と七生村ー近代の日野ー：日野市の歩み、明治期の地域調査、気象記録、日野宿と師範学校、日野銀行、自由民権運動、明治維新と日野義順、明治の豪農、大阪事件出獄祝賀会、養蚕業、旧日野宿の点描、甲武鉄道と百草園ー日野を訪れた文人ー、日清戦争、五十子敬斎日記、七生村青年団程久保支部、「夏季休暇日誌」から、五十子巻三の富士登山、豊田の耕地整理、明治・大正の女子教育者秋間為子、関東大震災

第5章 くらしと年中行事ー日野の民俗ー：昔のお正月、二月の年中行事ー節分の豆まき・初午・八日ぞうー、道ぶしんと堀さらい、昔のくらしー着るものー、庶民の生活と甘いもの、馬と日野の昔話、農馬の生涯、日野の地名

第6章 寺社と信仰：百草八幡宮の伝紀、風邪をなおす神様石神宮、日野の社寺と山伏、仏像の里帰り、庚申塔と庚申講、馬頭観音、念仏講と徳本上人、念仏講、現代の代参講、祭りと日どり、梵鐘流転、多摩の霊場、

折り込み地図 東京都南多摩郡日野町全図

<日野市史史料集>

日野市史史料集 考古資料編 昭和59年3月31日発行

昭和30年代末頃に始まる行政発掘以前の考古学関係の論文・報告書、市内主要遺跡の概略。日野市考古学文献目録。

日野市史史料集 古代・中世編 昭和56年3月31日発行

古代・中世の日野市に関する記録・文書および市域所在の文書・金石文など、平安、鎌倉、室町、戦国時代の四期にわけ年代順に。原文・読み下し文・注釈・解説。史料135点。

日野市史史料集 近世1 交通編 昭和53年3月31日発行 史料109点

日野市史史料集 近世2 社会生活・産業編 昭和54年12月1日発行 史料180点

日野市史史料集 近世3 支配編 昭和61年3月31日発行 史料202点

交通編 近世の日野宿、天満・助郷、玉川渡船など

社会生活・産業編 村・組・村などの社会生活や、林野、新田開発、農業、用水、漁業、養蚕、商工業、金融などの産業について

支配編 江戸幕府・旗本など領主の農村支配や村落の負担について。検地、年貢、御用金などの負担、災害など。

日野市史史料集 近代1 行財政編 昭和51年6月30日発行 史料228点

日野市史史料集 近代2 社会・文化編 昭和54年3月31日発行 史料294点

日野市史史料集 近代3 産業・経済編 昭和57年3月31日発行 史料172点

旧日野町、旧七生村の明治初年から昭和21年までの行財政、社会・文化、産業・経済に関する史料。

日野市史史料集 高幡不動胎内文書編 平成5年3月31日発行

高幡山金剛寺の不動明王坐像胎内文書（写真、翻刻、注記）。参考史料。

日野市史史料集 地誌編 昭和 52 年 7 月 1 日発行

近世の日野地域の概況を知ることのできる地誌・紀行文・村明細帳など 36 点。

日野市史史料集 続地誌編 平成 3 年 3 月 31 日発行

日野市史史料集 地誌編に収載できなかった日記・紀行文・地誌・町村勢など 22 点。

日野市史史料集 板碑編 昭和 56 年 3 月 31 日発行

日野市内板碑地区別・年代別一覧表、市内板碑図録（年代・図版・拓本写真 252 点・サイズ・所在）、日野市内板碑分布図ほか

＜五十子敬斎日記＞

い ら こけいさい

落川出身の五十子敬斎は、気象、農事、年中行事、経済など記した日記を残した。明治 26 年から 40 年までは五十子家の所蔵者と佐伯弘次氏により復刻された（全 8 巻）。明治 15・19・25 年および、明治 41 年～昭和 6 年の各年 1 巻ずつ、全 25 巻が市史編さん委員会から発行されている。

＜河野清助日記＞

日野本町の河野家に伝わる河野清助の日記。気象や農事などが記録され、幕末・明治維新といった変革の時期の日野宿の様子も記されている。慶應 2 年から明治 44 年の 47 年間にわたる日記のうち 3 巻が発行されている。

河野清助日記 一 慶応 2 年～ 4 年 平成 9 年 3 月 31 日発行

河野清助日記 二 明治 2 年～ 6 年 平成 12 年 3 月 31 日発行

河野清助日記 三 明治 7 年～ 11 年 平成 12 年 3 月 31 日発行

（６）新選組のふるさと歴史館の利用

豊かな自然と歴史に恵まれた日野市は、郷土学習のテーマに事欠かない。その中で、甲州街道の宿場の存在と、新選組を生み・育てた歴史は、日野市の地域性を理解するうえで欠かせない事項となっている。

甲州街道は江戸時代の五街道の一つであり、現在の日野駅付近は、その宿場町として賑わっていた。日野宿は多摩川を渡る日野渡船場の経営も担い、日野宿の周辺村落は助郷村として宿場の運営に大きなかわりを持っていた。また、新選組隊士の土方歳三や井上源三郎は日野市の出身であり、後の新選組の中核となる人々は日野宿の佐藤道場で出会い、日野の人々の支援を受けながら活躍を続けた。このため、日野市は“新選組のふるさと”として全国的に知られている。

ここでは、新選組のふるさと歴史館と日野宿本陣を中心に、日野宿や新選組について学ぶことができる施設を紹介する。

＜新選組のふるさと歴史館＞

施設の概要

新選組のふるさと歴史館は、かつての日野市ふるさと博物館の施設を利用して、平成 17 年 4 月に設置された。新選組と幕末に関する展示と、調査・研究を主な事業としている。常設の展示は行っておらず、新選組に関する特別展を年間 1 回開催するという形式をとっており、これまで次のような特別展を開催している。

『新選組誕生』（平成 17 年 12 月 10 日～平成 18 年 8 月 31 日） 新選組を生んだ多摩地域の歴史的背景と、その中で新選組が誕生するに至った経緯を多摩地域の広範な資料から紹介。

『新選組 京都の日々』（平成 19 年 2 月 3 日～5 月 20 日） 上洛から戊辰戦争の前夜まで、新選組の京都での活躍の様子を各種の資料に基づいて紹介。

また、新選組関連の特別展が行われない期間には、郷土資料館の企画展等が開催されている。

学校の利用

施設が開館してから日が浅く、展示期間も限られているため、郷土学習に活用された事例は多くない。しかし新選組をテーマとした郷土学習に対応できるよう、次のような体制をとっている。

まず、団体での見学に際しては、要望があれば学芸員が展示解説を行っており、授業形式で説明を聞きたい場合には、2 階の講座室（椅子席で 50 名、床に直接座ると 80 名程度収容）を利用することができる。展示室ではガイドボランティアが展示解説や質問への対応を行っており、児童・生徒が個人的に訪れても質問等に対応できる体制になっている（なお、ガイドボランティアと学芸員は日によっては不在の場合もある）。

また、展示期間以外でも幕末と新選組に関する質問に対応している。ただし、資料（書籍を含む）の貸出し等は行っていない。

【利用案内】

所在地：日野市神明 4－16－1

電話：042－583－5100

FAX：042－584－5224

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）、年末年始。

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入館は午後 4 時 30 分までをお願いします）。

観覧料：大人 200 円、小人 100 円。※学校での利用の際は、観覧料免除（事前申請必要）。

（７）日野宿本陣の利用

日野本郷名主兼日野宿問屋であった佐藤家の屋敷で、江戸時代は本陣・脇本陣として利用された。現在の建物は文久3年(1863)に佐藤家12代目の佐藤彦五郎が建築したもの。式台付の玄関や、太い大黒柱や梁などが見られる重厚な建築だが、梁や床の間、欄間などに施された細かな細工も、当時の名主の生活とその美意識を物語るものとして見逃せない。また、この佐藤家の長屋門（現存せず）に佐藤彦五郎が開いた天然理心流の道場に、後の新選組の主要メンバーが集まったことは、広く知られている。



このような日野宿本陣は、建物そのものが甲州街道日野宿や新選組を学ぶための資料であると言える。向かいにあった高札場・問屋場（現在は石碑が立っている）とあわせて、江戸時代の交通の仕組みを空間的に把握することができる。また、日野宿本陣は市内に残る数少ない江戸時代の建築物でもある。畳の座敷に座り、建物の中を抜ける風を感じるだけで、日本人が培ってきた生活観を体感することができるのではないだろうか。

なお、施設内では、ガイドボランティアが説明や質問への対応を行っている。

【利用案内】

所在地：日野市日野本町 2-15-9

電話：042-587-0013

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）、年末年始。

開館時間：午前9時30分から午後5時まで

観覧料：大人200円、小人100円。※学校での利用の際は、観覧料免除（事前申請必要）。

（８）日野宿交流館の利用

日野宿観光の拠点として、平成19年5月12日に開館予定。2階には日野宿の歴史や景観を学ぶことができる展示スペースとなり、日野宿のジオラマや古文書、民具などが展示される。

※所在地：日野市日野本町 7-5-6（旧八王子信用金庫）

（９）新選組関係民間資料館などの利用

新選組関係の個人資料館

日野市内には新選組隊士だった土方歳三・井上源三郎や、新選組の生みの親であり支援者であった佐藤彦五郎の子孫が運営する個人資料館もあり、新選組をより深く学ぶことができる。

なお、いずれも個人が運営しているため、利用の際には早めの連絡が必要。

- ・ **土方歳三資料館**：第1・第3日曜日の午後2時～4時開館。

電話042-581-1493

- ・ **井上源三郎資料館**：第1・第3日曜日の午前10時～4時30分開館。

電話042-581-3987

- ・ **佐藤彦五郎新選組資料館**：第1・第3日曜日の午前10時～4時30分開館。

電話042-581-0370

※このほか臨時開館もあるので、要問合せ。

図書館

日野宿や幕末・新選組に関する図書は、日野図書館（584-0467）と市政図書室（585-1111代）に、特によく揃っており、貸し出しも行われている。

(10) 日野市立図書館の利用

日野市立図書館ではホーム・ページに「日野市について、よくある質問」を掲載しております。ここに【(11)】、その一部をご紹介します。調べ学習・教科教材等の基礎資料としてご利用ください。

「日野市についての資料」について

「日野市についての資料」は、主に市政図書室・中央図書館レファレンス室で所蔵しています。（回答内に【S**】と枠で囲っている記号は資料の「請求記号」です。資料の場所を探す目印になります）

《日野市立図書館の利用者カードをお持ちの方》

お近くの図書館に資料がない場合は、リクエストしてください。所蔵している図書館から、お近くの図書館へ資料を送ります。（貸出禁止の資料もあります）

《日野市立図書館の利用者カードをお持ちでない方》

市政図書室・中央図書館レファレンス室にご来館またはお問合せ下さい。

（日野市についての資料に限り、特別貸出可能な場合があります）

よく利用する URL

[日野市HP] <http://www.city.hino.lg.jp/>

日野市の公式 HP として、基本的な情報は網羅しています。

[サイバー日野] <http://www.c-hino.org/>

「日野史跡・歴史データベース」は過去に日野市広報に掲載された郷土史に関する記事を検索・閲覧することができます。

その他、日野市に関する情報検索のためのリンク集が、[日野市立図書館 HP] に作成してあります。どうぞご利用ください。

http://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib_doc/link/link-hino.htm

日野市について、よくある質問 ①～⑬の各項目については、(11)に記載

(11) 図書館に問い合わせの多い質問

☆① 日野市**住宅地図(航空地図)**の古いものが見たいのですが？

市政図書室では1962年～、中央図書館レファレンス室では1968年～所蔵しています。(所蔵のない年もあります)。館外貸出はしていませんので、館内でご覧ください。また、複写される場合は著作権法の規定がありますので、ご注意ください。

☆② 日野市**航空写真**の古いものが見たいのですが？

市政図書室では下記のものを所蔵しています。館外貸出はしていませんので、館内でご覧ください。

1947年(昭和22年)

1961年(昭和36年)

1969年(昭和44年)

1990年(平成2年)

☆③ 過去の『**広報ひの**』が見たいのですが？

【SG5】に資料があります。

『日野町広報』(昭和27年8月15日～昭和35年1月1日)

『広報ひの縮刷版1-13』(昭和35年4月～平成6年3月)

→これ以降は原紙をファイルで保存しています。

〔日野市 HP〕 平成16年1月1日号以降の閲覧が可能です。

☆④ 日野市の**人口**について調べたいのですが？

『とうけい日野』(毎年10月頃刊行)【SN4】

「住民基本台帳」および「国勢調査」を元にした人口統計を掲載しています。

【SN6】に詳しいファイル資料があります。

『日野市の人口変遷 本庁・支所別(月報)』ファイル

本庁・支所別に世帯数・人口(総数・男女別)

外国人登録者数(総数・男女別)

＊毎月1日現在の数字を発行

『町丁別世帯数と人口』ファイル

(昭和48～平成16年は『町丁別世帯数および人口報告書』)

町丁別の世帯数・人口(総数・男女別)

＊毎年1月1日現在の数字を発行

『日野市の年齢別人口報告書』ファイル

年齢別人口(総数・男女別)

＊毎年1月1日現在の数字を発行

『日野市の年齢各歳別集中表』ファイル

町丁別の年齢別人口(総数・男女別)

＊毎年1月1日現在の数字を発行

〔日野市 HP〕 最新の人口・世帯数・面積が見られます。

年齢男女別人口・町丁別世帯数と人口などが見られます。

〔東京都 HP〕 東京都内自治体別の「住民基本台帳による世帯と人口」などが見られます。

☆⑤ 日野の湧水について調べたいのですが？

《湧水》地下水が自然の状態で地表面にわき出てきたもの。

、k(『水の百科事典』より 高橋裕／ほか編 丸善 1997.9 【R450.3】)

【SY2】に資料があります

『多摩の湧水めぐり (けやきブックレット 6)』

百瀬千秋著 けやき出版 1992.9

『東京の自然水 1 2 4』 廣田稔明著 けやき出版 2006. 4

『東京の名湧水 57 選』東京都環境局自然環境部水環境課 2003.7

『東京の湧水 水を訪ねる小さな旅』

平松純宏写真のんぶる舎 1998. 5

『東京湧水探訪 等々力溪谷、深大寺、はけの道など 4 4 コース』

百瀬千秋 けやき出版 1995.7

『日野のわきみず』日野市湧水・水辺保全利用計画ワークショップ 2003.4

『日野市湧水・水辺保全利用計画概要書』『同 資料編』『同 報告書』

日野市環境共生部緑と清流課 2004.3

『湧水量および地下水位計測調査業務委託報告書』(毎年) 地盤調査事務所

*～2002 は『湧水量および地下水位計測調査業務報告書』

『東京の自然をたずねて (日曜の地学 4)』大森昌衛監修 築地書館 1998

自然の働きや、生き立ちを例を挙げわかりやすく記した本。

日野市黒川段丘崖付近の様子が紹介されています。

【日野市 HP】 市内湧水・自噴井戸水量調査結果が一部見られます。

☆⑥ 日野市の大字・小字を知りたいのですが？

《大字》町村内の区画の名。大字と小字とがあり、普通は後者を単に字という。

《小字》町村内の大字をさらに細かく分けた称。

(『広辞苑(第5版)』より 新村出／編 岩波書店 1998.11 【R813.1】)

次のような資料があります。

『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983.10 【SB1】

p394-400「第七章 地名：第2節 字名・小字名一覧」

『日野市内の字名・小字名一覧図』日野市役所 【SC0】

『日野市七生地区の地名と昭和の高幡』日野の昭和史を綴る会 2002.12 【SC1】

『日野の地名 新庁舎のロビーレリーフタイル』日野市市史編纂委員会 【SC1】

日野市役所のロビー壁面には、村名・大字・小字等が約 400、漢字とひらがなでのべ約 3100 字がレンガ風のせともので焼かれ貼られています。それら全てを収録した資料です。

☆⑦ 日野市の地名の由来を知りたいのですが？

次のような資料があります。

『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983.10 【SB1】

p.383-393「第七章 地名：第一節 旧郷村」

『市史余話 (日野市史 別巻)』日野市史編さん委員会 1990.3 【SB1】

p.293-312「第五章 くらしと年中行事：8 日野の地名をたずねて」

『多摩の地名（第2版）』保坂芳春 武蔵野郷土史刊行会 1980.2 【SC1】
 p.179-192「日野と日奉氏」「百草と百草園」「平山と平山氏」
 『多摩の地名語源考』鈴木樹造著 寿寿松 1980. 10 【SC1】
 『日野市七生地区の地名と昭和の高幡』日野の昭和史を綴る会 2002.12 【SC1】
 『八坂の杜から - 多摩郷土史研究 - 』土淵英夫 土淵あい子 1998.5 【SB1】
 p.2-29「日野の地名について」
 p.160-168「日野史の歴史：日野地名考」
 （この部分、次の資料からの転載）
 『多摩の歴史 7』武蔵野郷土史刊行会・明文社 1975.12 【SB1】
 『広報ひの』（1997.4.15～1998.3.15の15日号に掲載）【SG5】
 「ふるさと地名物語―大字・小字をたずねて 1～11」

また、【SU1】の市内学校要覧・記念誌などにも地域の歴史が記載されています。

☆⑧ 日野市の神社・寺院について知りたいのですが？

次のような資料があります。

『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983.10 【SB1】
 p.475-527「第11章 神社と寺院」
 『東京都宗教法人名簿 平成12年1月1日』東京都総務局行政部指導課 2000.2
 p.261-264「日野市」の宗教法人一覧あり 【SC8】
 『東京都神社名鑑（下）』東京都神社庁 1986.3 【SC8】
 p.246-260 地図あり
 『日野七福神めぐり』日野七福神会事務局 2004.12 【SC8】
 『日野の祭幟』 日野の歴史と民俗の会 1996. 9【SD5】
 市内各神社の祭神、例祭日、幟旗（文字）等を詳細に記述。

また、各施設の資料に次のようなものがあります。

『八坂の杜から - 多摩郷土史研究 - 』土淵英夫 土淵あい子 1998.5 【SB1】
 p.64-77「八坂神社について」「八坂神社年表」
 『日野宮神社誌 - 拝殿再建記念 - 』日野宮神社氏子会 1985.9 【SC8】
 『国宝高幡不動尊』高幡不動尊金剛寺 1987 【SC8】

☆⑨ 東京都多摩動物公園について調べたいのですが？

多摩動物公園は、昭和33（1958）年5月5日に開園しました。

【SY8】に次のような資料があります。

『事業概要』（毎年） 東京都多摩動物公園庶務課
 『多摩動物公園ガイドブック 2004年』東京都多摩動物公園 2004. 3
 『昆虫園本館』東京都多摩動物公園 2002. 4
 『ボス交代 ～多摩チンパンジー村の30年』
 吉原耕一郎著 日本放送出版協会 1999. 6
 『多摩動物公園グラフ（改訂版）』東京動物園協会 1997. 1
 『日野市文化協会報 第24号』
 元多摩動物公園園長矢島稔氏講演会録 生まれかわった動物園 』
 日野市文化協会発行 1995
 『多摩動物公園（改訂版）（東京公園文庫 6）』郷学舎 1994. 11

- 『昆虫の国 ～多摩動物公園昆虫生態園をつくる』
矢島稔／編著 けやき出版, 1990 6
- 『多摩動物公園昆虫園ガイドブック』
東京都多摩動物公園監修 東京都動物園協会編
東京動物園協会 1989
- 『はばたけ！未来へ 30年のあゆみ』東京都多摩動物公園 1988
- 『日本の動物園物語』（世界ノンフィクション全集 11）
河野貴子著 ぎょうせい 1985. 5
- 『クリちゃんの動物園さんぽ』
根本進著 東京動物園協会 1998. 11
- 『多摩動物公園10年のあゆみ』
東京都多摩動物公園編 東京都多摩動物公園 1968. 4
- 『KOALA BOOK（コアラ・ブック）』
多摩動物公園監修 東京動物園協会 1987. 10
- 『どうぶつと動物園』（季刊） 東京動物園協会【480】【SY7】

〔東京 Zoo ネット HP - 多摩動物公園〕

開園時間や最新の動物情報などは、こちらをご覧ください。

<http://www.tokyo-zoo.net/zoo/tama/index.html>

☆⑩ 日野市の方言について調べたいのですが？

- ・ 次のような資料があります。
『日野市史 民俗編』日野市史編さん委員会 1983. 10 【SB1】
p. 365-382 「第六章 方言」
『日野言葉（ことぶき大学資料 1993 年 12 月 10 日）』古谷洋太 1993. 12 【SD9】
『言葉』古谷梅雄 1976. 11 【SD9】
- ・ また、多摩地域の方言については【SD9】に次のような資料があります。
『多摩の方言と人情』平井英次 教育報道社 1982. 1
『多摩の方言と生活』平井英次 教育報道社 1983. 11
『立川の方言（立川民俗シリーズ 7）』鈴木為佐生／著 早川薫太郎／絵
立川市教育委員会 1987. 3
『八王子の方言（文化サロン双書 1）』塩田真八 八王子文化サロン 1965
『八王子方言考』鈴木樹造 かたくら書店 1983. 1
『多摩弁暦』
平井英次作 高桑敏子絵 教育報道社 1998. 7

☆⑪ 日野市内の植物について調べたいのですが？

- ・ 【SY6】に資料があります。
『日野の植物』播本正常 日野の自然を守る会 1973. 7
『新・日野の植物ガイドブック』日野の自然を守る会 日野市 1985. 3
『日野市植生図』日野市 1989
『日野市の植生』（本編／付表） 日野市・日野の自然を守る会 日野市 1976. 3
『日野市の植生 2』（本編／付表） 日野市・日野の自然を守る会 日野市 1991
『みんなで調べた日野市のタンポポと水草 1975/2002』
日野の自然を守る会 2003. 9

『日野市森林整備計画 平成 18 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日』日野市 2006

・市史にも記載があります。【SB1】

『日野市史 通史編 1 自然・原始・古代』日野市史編さん委員会 1988.3
p.45-62 「第二章 日野の生物：第一節 日野の植物」

☆⑫ 日野市内の動物について調べたいのですが？

【SY7】に資料があります。

『新・日野の動物ガイドブック』日野の自然を守る会 日野市 1994
『数え上げた浅川流域の野鳥 2 ～八王子・日野カワセミ会 二十年間の観察記録』
八王子・日野カワセミ会 2006.3
『浅川流域探鳥図 ～野鳥と出会う身近な探鳥コース』
八王子カワセミ会 1999.10
『多摩川の鳥 ～原田孝一写真集』

原田孝一著 オリジン社 1988.3

『多摩川の鳥 ～田村栄写真集』 田村栄著 誠文堂新光社 1961

『日野の昆虫ガイドブック 』日野の自然を守る会 日野市 1982.3

・市史にも記載があります。【SB1】

『日野市史 通史編 1 自然・原始・古代』 日野市史編さん委員会 1988.3
p.63-85 「第二章 日野の生物：第二節 日野の動物」

☆⑬ 日野市の過去の気象・天気を知りたいのですが？

日野市内には公式の気象観測所は置かれていません。参考になりそうな資料としては、

【SY1】に次のようなものがあります。

『日野市気象観測月報・日報』日野市防災情報センター
昭和 58（1983）年から観測開始。天気の記載はなし
『気象観測調査表 1960～1975』農林省蚕糸試験場日野桑園 1973
天気の記載あり（一部記載のない時期あり）

日野市に一番近い公式の観測所は八王子市役所内の天気相談所です。

『八王子気象年報』八王子市

昭和 48（1973）年から所蔵

『八王子の気象 - 30 年の観測記録 - 』八王子市天気相談所 八王子市 1989.2

昭和 36（1961）年～昭和 62（1987）年の天気の記載あり

また、過去の気象・天気の調べ方が次の資料に記載されています。

『市史余話（日野市史 別巻）』日野市史編さん委員会 1990.3 【SB1】
p.185-190 「日野の気象記録」

・明治の頃の天候については、「日記」「日誌」を参照することができるようです。例
としては『河野清助日記』『五十子敬斎日記』など。

『河野清助日記 1～3』日野市教育委員会 1997.3～2001.3 【SC9】

『五十子敬斎日記』（34 冊）日野市 1975.4～1994.3 【SC9】

3. 日 野 の 学 校 の 歩 み

(1) 教材として活用する意義

学校はいつの時代も変わらない価値あるものを大切にするとともに、時代の変化に対応した新しい学校づくりが求められている。潤徳小学校百年誌の「人間の歴史は教育の歴史であり、教育は人間とともに歩んできた。これからも、人間が生存している限り、人間と教育との関係は永久に続くであろう。」は、教育が如何に重要であるか、その重みをずっと感じる言葉である。また、卒業生の「今でも学校に愛着がある」の話からは、学校教育が果たす「成長を促す」役割・責任・信頼の絆が伝わってくる。時代は変わろうとも、人間形成の基盤となる大事な時期、子どもたちの心に深く愛校の心を刻みたいものである。

本年（平成 18 年）4 月に、平山小学校と平山台小学校が統合し、新しく平山小学校が誕生。既に平成 14 年の 4 月には、高幡台小学校と程久保小学校が統合して夢が丘小学校が誕生している。このように、日野の小・中学校は著しい児童生徒数の増加の時代をとおって、現在は、適正規模・適正配置の方針に基づいた学校の統合が行われている。学校の歴史を閉じるのは淋しいことではあるが、地域を共有する隣接校と一つになって新たな学校が誕生することで、子どもたちが一層生き生きと育つことを期待したい。

こうした市内における学校の変遷時期に、“日野の学校”を教材として活用する意義は大きいものとする。『指導事例 第 1 集 事例 5 の校章・校歌の活用』と合わせて授業に取り入れたい教材である。

【おさえておきたい基本的事項】

- 学校の歩みは、地域の人々の願い、思いとつながりがある。
- 日野の学校の変遷は、地域の変遷、国の施策と深い関係がある。
- 明治にできた日野の学校は、寺子屋がその土台となるとともに、人々は私財を投じて地域の学校づくりに励んだ。
- その内容は「読み・書き・そろばん」の初歩的なものであったが、自発的であり、庶民の教育に対する自覚の芽生えた頃である。
- 日野の寺子屋のほとんどが沖積地にあり、まちの形成と深い関係がある。

【使用関連学年と教科・領域】

- 3 年社会科「学校の移り変わり」「地域の移り変わり」
- 6 年社会科「江戸の文化をつくり上げた人々」「明治維新をつくり上げた人々」
- 総合的学習の時間

(2) 寺子屋から郷学校、学校の誕生

- ①江戸時代の日野は幕府の天領として、他地域よりも年貢が安く、人々の生活は安定していた。寺子屋の起源については、室町時代といわれているが、江戸の元禄から急に普及し始めた。寺子屋教育の広まった理由は、

- ①商品経済、貨幣経済の社会変化にあって、庶民の日常生活にも文字の使用や計数の使用が不可欠なものになった。
- ②法度、高札、触書などが文書によって庶民に通達された。また、庶民も文書を作成して請願や要望を出すようになった。

幕末になると人心の不安はかくしきれず、庶民の中にも学問を志す者も増え、武士の子弟に負けてはならずと努力するものが増え、寺子屋に活気が漲るようになり、全国において、そして、多摩地域においても激増した。

欣浄寺（日野宿）、 普門寺（日野宿）、 大昌寺（日野宿）、 宝泉寺（日野宿）、 安養寺（石田）、 善生寺（豊田）、 延命寺（川辺堀の内）、 薬師堂（上田村廃寺）、 真福寺（宮村廃寺）、 真照寺（三沢）、 医王寺（三沢）、 高幡塾（高幡）、 杉本塾（程久保）、 寿徳寺（南平）、 太福寺（平山）、 宗印寺（平山）

日野地域では日野宿を中心に36か村で1つの郷学校をつくることになった。(堀之内村＝柚木学校、高幡村＝高幡学校、日野宿＝日野学校、連光寺村＝向ヶ丘学校、この4か所を巡廻して、巡回講演会式で貧富を問わず、子どもから大人までを対象にして授業を行った。)

(なお、廃藩置県の制度で、三多摩が神奈川県に編入されていたのは、明治5年から明治26年3月まで。26年の4月からは東京府に編入した。)

普門寺→日野学校 安養寺→下田学校 医王寺→潤徳学校
宗印寺→平山学校 寿徳寺→種徳学校 真昭寺→昭景学校

日野学校 ← 日野宿、東光寺、四谷地域
 豊田学校 ← 豊田、川辺堀之内、上田地域
 下田学校 ← 万願寺、石田、新井、下田、宮地域
 潤徳学校 ← 三沢、高幡、程久保、落川、一宮地域
 平山学校 ← 平山、平（明治12年南平を名乗る）地域

時代	年号	西 暦	で き ご と	主な国や市の動き
明 治 時 代	6	1 8 7 3	5 月 日野学校、土淵山普門寺の本堂を利用して開校 5 月 潤徳学校、医王寺で開校 5 月 平山学校（真心学舎）、宗印寺において開校 5 月 種徳学校（種徳学舎）、寿徳寺において開校 下田学校、安養寺本堂を利用して開校	m5 学制発布
	7	1 8 7 4	3 月 豊田学校、山口平太夫氏の長屋を校舎に開校	
	8	1 8 7 5	6 月 種徳学校を平学校と改称 8 月 昭景学校、落川村真照寺にあった潤徳学校の分校から独立	
	1 1	1 8 7 8	9 月 下田学校、新築 9 月 潤徳学校、新築 9 月 種徳学校、潤徳学校に合併、吸収	m11郡区町村編成法により、東西南北の4郡ができる 南多摩郡役所開庁（郡長佐藤彦五郎）、日野は南多摩所属

	1 7	1 8 8 4	平山学校、大福寺跡に新築移転	<u>m19</u> 小・中学校令 尋常小学校 4 か年 をもって義務教育 とする
	2 0	1 8 8 7	校名が尋常高等小学校に変更される	<u>m22</u> 市町村制施行(日野 宿、桑田村、七生村 の 3 村) <u>m 2 6</u> 日野宿は日 野町になる <u>m34</u> 日野町、桑田村合併
	4 1	1 9 0 8	下田尋常高等小学校、豊田尋常高等小学校が日野尋常 高等小学校に合併、分教場となる	
	4 2	1 9 0 9	昭景尋常小学校が潤徳尋常高等小学校に合併	人口 8073 人
大 正 時 代				
	1 6	1 9 4 1	小学校は国民学校となる	<u>S16</u> 国民学校令 太平洋戦争 人口 12476 人 <u>S 20</u> ポツダム宣言受諾
	2 1	1 9 4 6	日野豊田分校が独立して豊田国民学校となる	<u>S21</u> 日本国憲法公布 人口 21720 人
昭	2 2	1 9 4 7	新教育制度により、国民学校が小学校と改められる 日野町立日野小学校、日野町立豊田小学校 七生村立潤徳小学校、七生村立平山小学校	<u>s 22</u> 六・三・三の 新学制 人口 22944 人
			日野中学校、七生中学校が開校	
和	2 5	1 9 5 0	日野小学校日野台分校が独立して日野台小学校とな る	
	2 9		日野町立日野中学校は日野第一中学校に校名変更 日野第二中学校が開校	人口 26296 人
	3 0	1 9 5 5	日野町立日野小学校→日野第一小学校に校名変更 日野町立豊田小学校→日野第二小学校に校名変更 日野町立日野台小学校→日野第三小学校に校名変更	
時	3 0	1 9 5 5	日野小学校下田分校が独立、日野第四小学校として開 校する	<u>S 33</u> 日野町、七生村合併

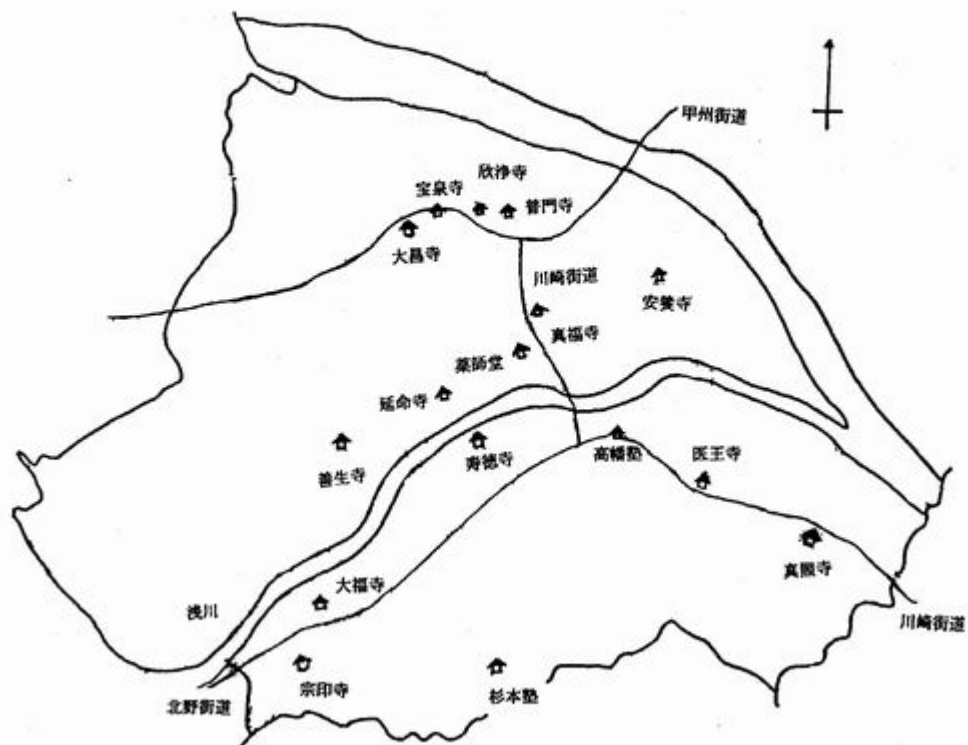
代	3 4	1 9 5 9	日野第五小学校が開校	多摩平団地入居開始、 人口 32998 人 S 39
	4 0	1 9 6 5	日野第六小学校が開校	東京オリンピック 人口 61706 人
	4 4	1 9 6 9	日野第八小学校が開校	S44 人口 83566 人
	4 5	1 9 7 0	百草台小学校が開校	S44 百草台団地入居
	4 6	1 9 7 1	日野第三中学校が開校	人口 90632 人
	4 7	1 9 7 2	滝合小学校が開校	
	4 8	1 9 7 3	高幡台小学校が開校	
	4 9	1 9 7 4	日野第七小学校、日野第四中学校が開校	
	5 2	1 9 7 7	南平小学校が開校	人口 117840 人
	5 3	1 9 7 8	三沢中学校、旭が丘小学校、程久保小学校が開校	人口 131824 人
	5 4	1 9 7 9	平山台小学校が開校	
	5 5	1 9 8 0	東光寺小学校が開校	
	5 6	1 9 8 1	三沢台小学校、大坂上中学校が開校	
	5 9	1 9 8 4	平山中学校が開校	
	5 9	1 9 8 4	仲田小学校が開校	
平成時代	1 4	2 0 0 2	高幡台小学校と程久保小学校が統合、夢が丘小学校の開校 平山小学校と平山台小学校が統合、新たに平山小学校の開校	人口 173295 人

〈参考資料〉

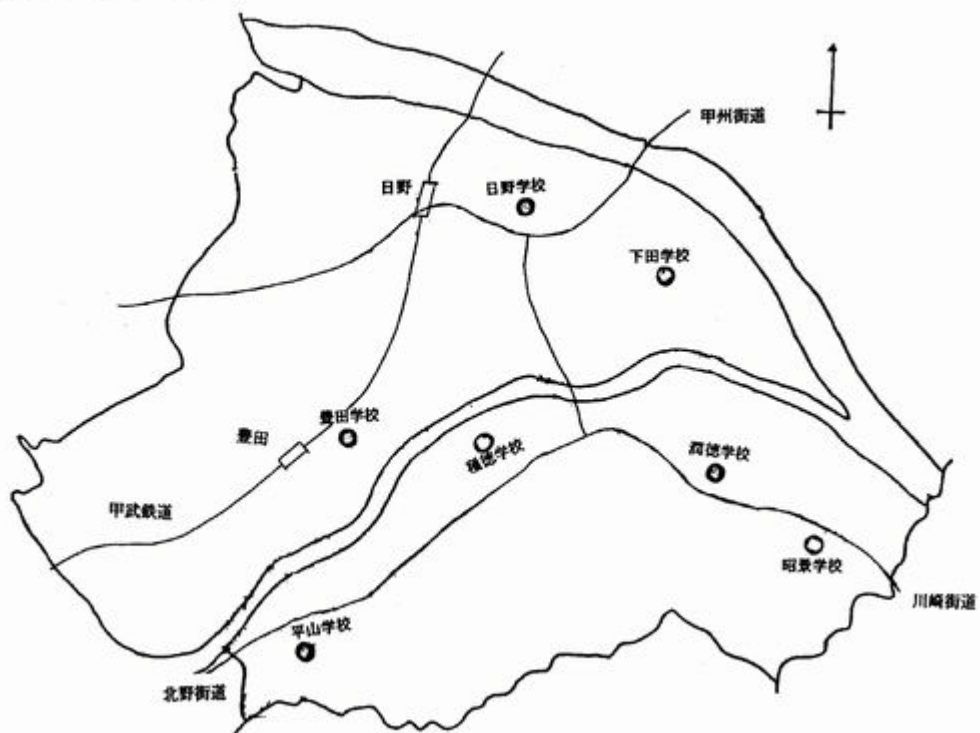
- 日野市史 通史編三 近代（一）
- 昭和50年7月1日、日野史談会発行の「日野の歴史と文化」第8号
一日野の寺子屋から小学校へ（田中紀子氏）
- 日野第一小学校、日野第二小学校、日野第四小学校、潤徳小学校、平山小学校の百周年記念誌他、市内小・中学校の周年記念誌
- 日野郷土かるた“教育に力をこめた郷学校”
- 尋常高等小学校修業証書（明治43年～大正3年）
- 尋常高等小学校卒業証書（大正4年）
- 尋常高等小学校通知簿（明治45年 評価＝甲、乙、丙、丁）

資料

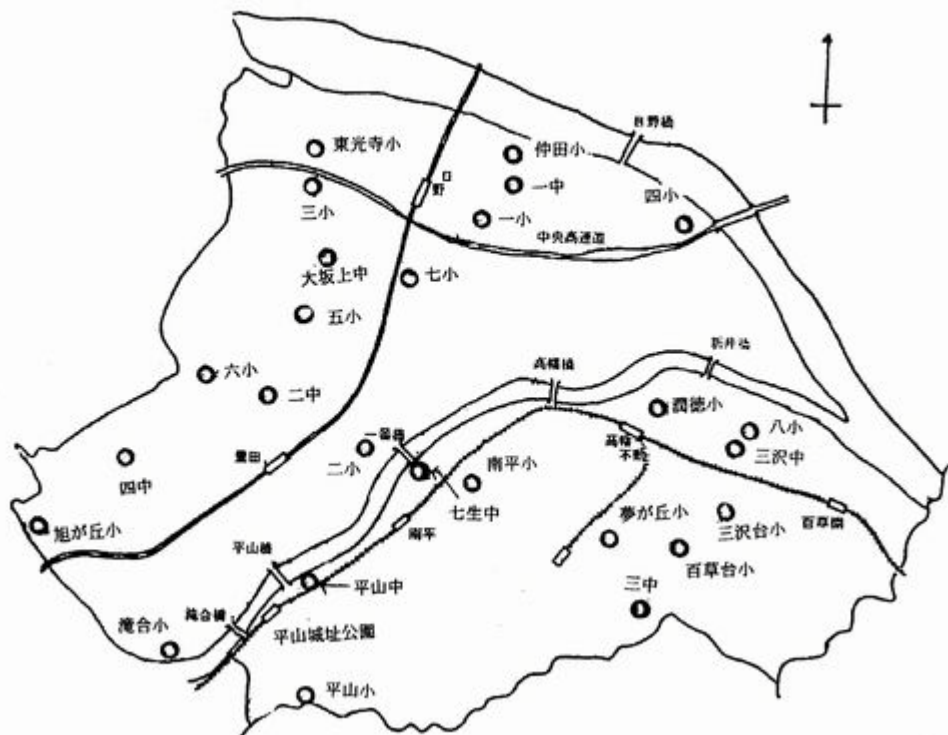
江戸時代終わりの頃の日野の寺子屋



明治時代の日野の学校



平成18年4月の日野の学校



Ⅲ. 郷土教材を活用した授業の展開例

(1) 教材名 日野の用水

(総合的な学習の時間 第4学年「日野の用水」)

1. ねらい

- ・ 日野の用水に関心をもち、自分の設定した課題にそって調べることができる。
- ・ 地域の用水が果たしてきた役割や用水を守るための先人の苦労や工夫を理解することができる。
- ・ 用水の現状と今も用水を守る努力をしている人々の活動を知り、今後の用水について考えることができる。

2. 指導計画(35 時間扱い)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気 づ く 10	用水に親しもう ◆日野用水で魚やザリガニをつかまえる。 ◆豊田用水を探検する。 ◆用水を歩いてみて気づいたことや疑問に思ったことを発表し合い、交流する。	○人や自然と直接関わりながら学ぶ楽しさに気づく。 ・魚取りの場所については、事前に市の緑と清流課に問い合わせしておく。 ・あらかじめ「用水について見たいこと、知りたいことなど」について聞いておく。 ・実物投影機を使い、歩いた所を思い出せるようにする。
見 通 す 4	課題を決めよう ◆日野市内を流れる用水のさまざまな姿を知り、またどんな用水があるか知る。 ◆昔の用水の姿を知る。 ◆ここまでの学習を通してわかったことや、もっと知りたいことを発表し、学習課題を決める。	・日野市内にはどんな用水があるか地図、写真、V T R, カラーコピーを使って紹介する。 ・昔の用水の写真や文章資料を活用する。 ・友だちの疑問点などに注目し、用水について学習課題を広げさせる。 ○自分の調べたいことや疑問を課題として設定できる。
追 究 す る 9	用水を調べよう ◆学習課題別のグループに分かれ、調べ学習の計画を立てる。 ・生き物、歴史、使いみち、よごれ ◆自分たちの考えた方法で用水について調べる。 ・魚とりをする。 ・天野水車で聞き取り調査をする。 ・用水の取り入れ口、深さ、流れの速さなどを調べる。 ・パケットテストなどをする。 ◆自分たちの調べたことをまとめ、気づいたことや疑問に思ったことから課題をもつ。 ◆課題別グループに分かれて調べ学習をする(本時) ・社会人講師やT. Tに話を聞く。 ・副読本を使って調べる。	・個々の課題について確認してから、計画を立てる。 ・調査方法については、課題と児童の実態からアドバイスする場合もあるし、そのまま試行させる場合もある。いずれにしても体験活動が行えるようにする。 ○課題を解決するためにはどんな情報が必要なのか考え、人や自然と直接関わりながら進んで集めることができる。 ・児童は目に見えないことは気づかないことが多いので学習が深まるようアドバイスする。また課題は多少重複しても調整はしない。 ○情報収集の方法を知り、活用できる。 ・めあてを広げたり、深めたりしながら追究できるように社会人講師やT.Tを活用する。

4	用水をきれいにしよう ◆用水の中の空き缶などのごみ拾いや藻などを取る。	・保護者と一緒に行い、用水の水量の減少やゴミなどの処理は市に依頼する。 ○学んだことを生かし、地域のために行動できる。
表現する 6	用水のよさを伝えよう ◆調べてきたことを伝える方法について話し合う。 ◆グループごとに活動計画を立て、役割を分担して作成し、練習する。 ・表、イラスト、図、劇、クイズ、ポスター、作文など。 発表会を開こう ・各グループが用水への思いを含めてまとめたことを発表し、交流する。 ・家の人に向けて発表する。	・体験活動、聞き取り調査、見学など学習したことを振り返る。 ○集めた情報を活用し、自分たちの考えを表せるよう、工夫してまとめることができる。 ・HPや模造紙、実物投影機などを用い、効果的なプレゼンテーションが行えるようにする。 ・自分たちの調べたことや他のグループの発表を見たり聞いたりして、感想をもち、よかった点を言えるようにする。
ふりかえる 2	今までのまとめをしよう ・学習してきたことをふりかえり、「用水新聞」を書く。	・他のグループの発表なども取り入れて、まとめる。 ○学んだことを明らかにし、新聞にまとめることができる。

資料 日野の主な用水路図



3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ・自分たちの課題(用水の歴史、生き物、利用、人々の努力)にそって調べることにより、身近な用水について関心をもち理解を深める。
- ・前時までの調べ活動(実地調査など)で解決できなかった課題を、地域で活動している社会人講師やT.Tを活用して解決する。

(2) 本時の展開

学習形態	学 習 内 容			
学年全体	1. 課題別グループごとに、今までの学習内容や今日の課題について発表し合い、課題の確認をする。			
課題別グループ	2. 課題別グループに分かれ、課題にそって調べる。			
	T.T(理科専科)	T 1 社会人講師 (資料館研究員)	T 2 社会人講師 (市役所職員)	T 3 社会人講師 (用水組合長)
	生き物グループ 学習課題：取ってきた魚や水草について調べる。 ・ 種類 ・ 生息場所 ・ 特徴 教師の働きかけ：取ってきた魚や水草について知ることによって、生き物に対する興味・関心を高めるよう支援する。	歴史グループ 学習課題：用水の開削の苦労を調べる。 ・ 工事をした人たち ・ 工事の方法 ・ 工事の苦労 教師の働きかけ：玉川上水の用水の開削の開削などを発展させる形で、人々の努力や苦労について理解させるようにする。	汚れグループ 学習課題：用水を残す苦労や工夫について調べる。 ・ 緑と清流課の仕事 ・ 用水を守る取り組み 教師の働きかけ：用水を保全する苦労や工夫を知り、自分なりの考えがもてるようにする。	使い道グループ 学習課題：用水の用途や用水組合の仕事について調べる。 ・ 昔と今の用水の役目 ・ 用水を守る取り組み ・ 用水組合の仕事 教師の働きかけ：組合長の話をもとに、用水についての理解が深まるよう助言する。
学年全体	3. グループごとに、わかったことを発表し合い、各自の学習を深める。			



日野用水クリーン作戦

(2) 教材名 平山陸稲と林丈太郎

(社会科 第4学年「地域の発展につくした人々」)

1. ねらい

- ・ 林丈太郎について調べ、林丈太郎の果たした役割を知り、苦労や願い、地域をよりよくしていこうとした思いを理解する。
- ・ 地域の発展に尽くした先人に関心をもち、史跡を見学したり、資料を活用したりして、その働きや苦心を考える。
- ・ 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解することによって、郷土への誇りと愛情を育てる。

2. 指導計画 (6時間扱い)

	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ (○評価)
1 2 つ か む	平山おかぼについて考えよう ◆「平山おかぼ」がどのような稲なのか調べ発見されるまでの様子を考える。 ◆宗印寺にある林丈太郎の墓碑と文からどのようなことをした人か考える。 ◆「平山おかぼ」と林丈太郎について調べたい課題を持ち、調べる計画を立てる。 ー新しい品種をどのようにして つくりだしたのだろうかー	・ 平山陸稲の稲を実際に見せ、対比によって特徴をつかめるようにする。 ・ 宗印寺にある墓碑を見せるとともに碑文を分かりやすくしておく。 ・ 副読本を参考にして、調べ方を考えられるようにする。 ○平山陸稲を開発した林丈太郎について知り、関心をもつ。
3 4 5 調 べ る	林丈太郎が平山おかぼを開発していった様子を調べよう ◆「おかぼ」を発見する前の平山の米作りの様子について資料を見て考える。 ◆林丈太郎が「平山おかぼ」を発見するまでの様子について資料で調べる。 ◆「平山おかぼ」が近隣地域から周辺の町、やがて全国へとだんだん広まっていた様子について調べる。	・ 副読本のほか、インターネット、市立図書館、郷土博物館などを随時活用し調べられるようにする。 ・ 個人で調べたことをグループ内で交流する時間を作り、情報交換できるようにする。 ○資料を活用して、林丈太郎と平山陸稲について進んで調べている。
6 ま と め	林丈太郎の苦心や努力について考えよう ◆調べたことを発表し、林丈太郎の苦心や努力について話し合う。 ◆当時の林丈太郎になったつもりで「おかぼ日記」を書く。	・ 自分の調べたことや友だちの発表内容など、自分の意見の根拠をもって、林丈太郎の苦心や努力についての考えをもつようにする。 ○林丈太郎の苦心や努力について考えることが出来る。

3. 本時の指導（1／6）

（1）本時のねらい

林丈太郎がどのようなことをした人か資料をもとに調べて、林丈太郎と平山おかぼに関心をもつ。

（2）本時の展開

主な学習活動と内容	・指導上の留意点 ※資料 ○評価
1 学童農園で育てた「平山おかぼ」がどのような稲なのか調べる ・平山おかぼのほうが大きい ・のぎが長い ・もみの数が多い	・自分たちが取り組んだ作業や稲の様子を想起させる。 ・「平山おかぼ」と普通の稲を比較して比べるようにする。 ※平山おかぼの稲 ※水田の稲
林丈太郎はどのようなことをした人か調べよう。	
2 宗印寺の林丈太郎の墓碑を見て、林丈太郎がどのようなことをした人か考える。 ・記念碑が建てられるような功績を残した人だ。 ・大きな功績があったと書いてある。 ・品種改良を進めた人だ。 ・平山の名前を全国に広げた人だ。	・e－黒板で宗印寺にある林丈太郎の墓碑の写真を見せる。 ・時間がとれば宗印寺で実物を見学しても良い。 ※林丈太郎の墓碑の写真 ※碑文と碑文をやさしくしたプリント ※e－黒板 書画カメラ（ICTの活用）
3 資料を使って、林丈太郎の功績について調べ、ノートに記録する。 ・凶作で困っている村の人々を助けようと思った。 ・20年以上かけて調べたり工夫したりした。 ・自分が見つけた種もみを村の人にも分けてあげた。 ・日照りに強くたくさんとれる「丈太おかぼ」を作った。	・当時の時代背景については補足説明する。 ・日照りによる凶作が続いていたときの人々の気持ちについても目を向けさせる。 ※日野市社会科副読本 ※副読本「ひらやま」
4 調べたことを発表し、林丈太郎がどのようなことをした人か話し合う。	・時系列で分かるように板書する。 ○平山陸稲を開発した林丈太郎についてどのようなことをした人かを知り、興味や関心をもつことができたか。
5 次時の予告を聞く。	・本時で調べたことをもとに、次時に学習課題を設定するようにする。

(3) 教材名 百草周辺の文化財－高幡不動尊・高幡城・百草園・百草八幡宮・多摩動物公園－

総合的な学習の時間 第6学年「これがわが町！百草の歴史！」

(社会科の発展学習として扱う)

1. ねらい

・地域周辺の文化財について調べることを通して、郷土を大切にする心情を育む。

2. 指導計画(20時間扱い)

	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(☆学習資料 *指導支援)
つかむ 2	① 日本の歴史と比較しながら、地域の歴史について予想する。	☆年表
	② 地域にある文化財とはどんなものがあるのか知っていることを発表する。	☆地域の地図 *学級の児童になじみのある建物などを扱うようにする。
調べる 16	③④ 地域にある文化財について課題をつくりグループを編成する。 百草の歴史はどのように続いているのだろうか？	☆地域の地図、年表
	⑤ 課題解決のための計画を立てる。 ・高幡不動尊はいつからあるのか。 ・多摩動物公園はなぜ山にあるのか。 ・高幡城はどんな役割があったのか。 ・百草園はいつから観光名所になったのか。	*調べる方法については、現地に行って調べることや人に聞くことも必要であることを確認する。 *文化財にかかわっている人々の思いや願いについても触れられるように計画に入れる。
	⑥～⑨ 課題解決に向けて取り組む。 ・インターネット ・図書資料 ・現地調査 など	☆図書、パンフレット、ホームページなど *現地調査についてはグループで計画し課外で行うようにする。
	⑩⑪ 郷土資料館で課題について調べる。	*学芸員の方に資料の読み方や見方などを中心に指導を受け、計画に従って調べるようにする。
	⑫～⑮ 発表用プレゼンテーションを作成する。	*発表内容の構成を考えさせ、その後パワーポイントを用いてプレゼンテーションを作成させる。
	⑯ 発表会の練習	*見やすさや伝わりやすさなどについて確認させる。
	⑰⑱ 「これがわが町！百草の歴史！」についてそれぞれのグループから発表をする。	*文化財にかかわってきた人々の思いや願いについても考えられるようにする。
まとめる 2	⑲ 百草の歴史年表を作る。	☆年表 *年表に地域の歴史を加えていき、学習してきた内容と関連付けられるようにする。
	⑳ 自分たちの活動を振り返る。	*自己評価シートを用いて振り返るようにする。

[本単元についての補足]

① 資料について

子ども向けの資料は、見つけるのは難しく、また見つかっても読み取るのは困難な場合が多い。各学校に配布されている小学校教育課程編成資料地域教材資料カード（S.60年度日野市教育委員会）が、わかりやすくまとまっております活用しやすい。

また、インターネット上では日野市観光協会やひの史跡データベースなどが文化財についての情報が集まっております活用しやすい。

☆日野市観光協会 <http://www.shinsenhino.com/>

☆ひの史跡・歴史データベース http://www.c-hino.org/hino_history/index.html

② 郷土資料館の活用について

今回、郷土資料館より「資料の解説」という点でご協力をいただいた。郷土資料館に保管されている数々の資料を学芸員の方にていねいに指導していただき、子どもたちの課題解決に役立てることができた。

* 郷土資料館からは高幡城跡の様子が見られる。

[授業の考察]

・授業後の子どもの感想

「今までふつうに見てきたものが今日の発表で大きく変わった。改めて思えば、ほくの周りの地域にはこんな歴史のつまった財産がたくさんあり、また、こんなにすごいものが昔から今まで残っているのありがたいと思った。」

「百草の歴史は、奈良時代から始まっているなんてすごいなぁと思った。源氏の人たちが関係していてとてもおどろいた。最初予想したのと、全然ちがったのでおどろいた。身近すぎて気付かなかったけど、意外と有名ですごいと思った。今やってきたのはまだ残っているので、ほくが大人になったときもこのままのこせたらいいなぁと思った。時代がちがってもつながっているんだなぁと思った。」

「私は百草園を調べました。百草園に実際に行って、とった写真がいくつかあります。その中の一つに百草園から下を（日野市）をとった写真があって、その風景を同じようにとった写真が資料館にありました。昔は湖や田んぼだった風景も今はビルばかりになってしまっていて時代は進んだんだなと思いました。けど、長い年月がたっても百草園はなくなっていなくておどろきました。きっと、周りの人たちの残したいという思いで残ったんだと思います。ほかの人たちの発表も聞いて百草にはたくさんの有名な人物がいると知ってびっくりしました。この百草をいつまでも大切にしないといけないと思いました。」

・本単元の成果と課題

本単元は小学校の社会科歴史単元の発展として扱った。内容としては奈良時代から昭和の高度経済成長期までに百草に現れた文化財を中心に、作られた経緯や役割、現在の様子などを中心に調べ、それらが人々の生活を支えていたこと、人々の努力によって現在まで残されていること、教科書に載っている歴史が自分たちの地域とも関連していることなどに気づき、自分と地域とのかかわりについて考える、という流れで学習を進めた。

子どもたちは自分たちの地域にも歴史があるということについてはあまり認識がないようであった。しかし、学習を進めていくうちに、百草には歴史ある建物がたくさん存在していること、他の地域に誇れるものがあるということに気付くことができ、感想にあるように、「地域の歴史が残っているのは、人々がかかわっているからである」という認識をもつことができた。この学習後、子どもたちは、地域を大切に受け継がれてきたものを未来につなげていきたいという思いを持ち、地域に対して愛着をもつことができたと言える。

地域の歴史を扱う場合には、資料が少なく、また読み解くことが難しいものが多いため、子どもたちに提示する際には事前の準備が重要になってくる。今回は、資料の用意及び資料の解説を、郷土資料館を訪問し直接学芸員の方に指導していただいたことで、子どもたちも自分の力で資料を活用し調べることができた。

今回の実践では、百草周辺の文化財の代表的なものを取り上げ、人々の努力や思いがあって「古くから百草の歴史が続いている」ということを意識させて取り組んでいたが、それぞれの文化財に対しての認識が浅いものとなっている点も見られた。また、いくつも文化財を取り上げたことで、見学を行うことが難しくなり、課外で自主的に見学するという形を取らざるを得なくなった。今後は文化財を絞って追及していく方法や、社会科の歴史学習で、時代ごとの学習の際に1つずつ取り上げていくという方法も考え、より子どもたちが地域について理解し、尊重していく態度を育んでいけるようにしていきたい。

(4) 教材名 自由民権運動と日野

(社会科 第6学年「明治維新をつくりあげた人々」)

1 ねらい

- ・我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等等の諸改革を行い、近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、我が国の近代化に貢献した先人の考え、思い、努力を理解する。
- ・年表、写真、文章資料、関係図、副読本「ひのっ子新選組探検隊」や「郷土日野」に関する資料を有効に活用し、当時の人々が我が国の発展や郷土の発展に果たした役割を考えまとめる。

2 指導計画(8時間扱い)

時	おもな学習活動・学習内容	留意点
1	①2枚の絵を比べてみよう 教科書に掲載されている2枚の絵を比較しながら読み取りこの間に社会にどのような変化が起こったのかを予想して、本小単元の学習問題をつくる。	☆2枚の絵に描かれた街並みや人々の装いなどの違いなどから、20年ほどの間の急激な変化に気づかせる。
1	②若い武士たちが幕府をたおす 若い武士たちが、そのような世の中をつくりあげようとしたのかを考える	☆大久保、西郷、木戸の3人に着目させ、新しい世の中をつくりあげた人々の働きに関心をもてるようにする。
1	③新選組 新選組・土方歳三の年表を作ることにより日野出身者である若者が歴史に影響を及ぼしたことに気づかせ、事実を知ることにより、興味・関心を持って地域を考える。	☆官軍・賊軍という視点ではなく、日野出身の歴史に影響を及ぼした人物ということで日野っ子探検隊を使い調べられるようにする。
1	④新しい国をつくる 明治政府の諸改革について調べ、改革の目的をとらえる。	☆富国強兵の国づくりの問題点についても話し合わせ、次時以降の学習につなげる。
1	⑤人々のくらしや考え方が分かる 文明開化に関する資料を調べ、明治になって人々のくらしの中にあられた変化をとらえる。	☆文明開花の様子について調べるとともに現在の自分たちの生活や文化への影響にも目を向けさせる。
1	⑥自由民権運動が広がる 明治政府の改革に対する社会の動きを調べ、自由民権運動の広がり、日野における自由民権運動について、分かったことや考えたことをノートにまとめる。(本時)	☆明治政府の改革に対する国民の反対の声、自由民権運動として広がっていったことを押さえる。 ☆日野における自由民権家と新選組との関係や、現代とのつながりを押さえる。
1	⑦国会が開かれる 国会の開設に至る過程を、人物の動きに即して」とらえる。	☆議会の仕組みや憲法の内容について、現在と比較しながら考えさせるようにする。
1	⑧まとめとふり返り まとめ話し合い活動とテスト	

3、本時の指導

(1)本時のねらい

- ・新政府に対する人々の不満が高まり、国会開設を求める自由民権運動として広まっていったことをとらえることができる。

- また、新選組を支援していた豪農層が時代が変わると、今度は日野における自由民権家として活躍したことをとらえる。

(2) 本時の展開

主な学習活動と内容	留意点(◎)・資料(※)
1、新政府に不満を持つ士族や農民は、どのような行動を起こしたのかを調べ、発表する。	◎第3時で学習した新政府の諸改革を想起させ、政府に対する人々の不満をつかませる。
自由民権運動は、どのような考えでどのように広がっていったのでしょうか。	
2、自由民権の考え方や広まりについて調べ、発表する。 ・板垣退助の意見…国会を開いて、国民の意見を聞くべきである。 ・自由民権の考え…人間は自由であり、平等である。 ・自由民権運動…国会を開き、憲法を作り、民主主義を求める動き。集会や署名運動が全国に広がる。	◎自由民権運動の広まりについては、教科書の絵などから政府の圧力にも負けずに演説を行っていたことや、日本全国に民主的な政治を求める運動として広まっていったことをとらえさせるようにする。
3、日野における自由民権運動の資料から気づいたことを発表する。 ・新選組の土方や井上と関係している。 ・日野の学校や多くの会社に関係もしている。 ・議員になっている人が多い。 ・潤徳小が書いてある。日野学校（一小）ってどこだろう？	※日野における自由民権運動（資料） ※ひのっ子新選組探検隊 ◎新選組を応援した豪農層の中から、このような民権家がでたこと、これらの民権家が現在の日野、児童にも関係していることを伝える。
4、自由民権運動に対する感想や意見をまとめ、発表しあう。 ・自由民権運動をおこした人や政府に対する意見や感想。 ・日野における民権家に対する意見や感想。	

4、授業の考察

新選組の土方や井上と同じ時、同じ場所で剣術を習っていた人が自由民権運動に関係していることに驚きや発見があったようである。配った資料を見るとそのことに気づき、口にしていった。短い時間ではあったが、日野の歴史に触れ、中央の歴史と比べたり、関係性を知ったりすることは、子どもに新しい知識や気持ちを持たせるきっかけになった。以下は子どもの感想や分かったことである。

○自由民権運動の日野義順という人が日野第一小学校の初代校長先生だと聞いて、すごく昔の人なのに近くの一小的校長先生だということにびっくりした。

○政談演説会が、僕が除夜の鐘も鳴らしたことがある宝泉寺で行われていたことに驚いた。

(5) 教材名 だいすき「高幡の歴史」

(総合的な学習の時間 第6学年「高幡プロジェクト」)

1. ねらい

- ・高幡のまちの歴史に興味を持ち、自分で課題を設定し、見通しを持って活動することができる。
- ・高幡のまちの人やものとの関わりをとおして、高幡のまちの歴史を理解し、郷土「高幡」に生きる人々の願いや考えを知る。
- ・これから高幡のまちについて考え、自分にできることを具体化し、郷土を大切にする態度を育む。

2. 指導計画 (全35時間)

過程	主な学習活動	・教師の働きかけ ○評価
気づく 5時間	高幡のまちに残っている歴史を探そう ◇高幡のまちに古くから残る「もの」や「人」を探す。探したものは、絵や写真で記録に残す。 ◇印象に残ったこと、疑問に思ったことを発表する。	・今までの学習や経験から「高幡のまちに残る古いもの」を挙げさせる。 ・高幡のまちを歩き、まちに残っている歴史を探し、写真を撮らせる。「もの」だけでなく、まちの「人」にも目を向けさせる。 ○児童が撮った写真に印象に残ったことや疑問に思ったことを書き、それを見せながら発表する。
見通す 5時間	高幡のまちに残る歴史について課題を決めよう ◇昔から高幡に住んでいる人の話を聞く。 ◇印象に残ったこと、疑問に思ったことからさらに追究したい課題を決める。 ◇課題別のグループをつくる。 ＊高幡不動尊、若宮神社、祭り ＊潤徳小学校 ＊商店街 ＊新選組 ＊鉄道と橋 ＊水と生活 ◇課題解決のための方法を具体的に考える。 ◇課題解決のための方法を発表し合い、交流する。	・地域の人に「まちの人々の暮らし」変遷に関する話をいただき、追究意欲を高めさせる。 ○追究したい課題を決めることができる。 ・似た課題をもつ児童でグループをつくる。 ・図書資料を探す、実物を観察する、地域の方に話を聞く、アンケートをとる、友達と話しあう、写真を撮る、わかったことを比較する、など「調べる」ことを具体的に考えてさせる。 ・必ず地域の人と関わる活動を方法に入れる。どの段階で、どの人と関わるようにするかは、児童の要求や必要となる時期を教師が考え、追究の段階でアドバイスする場合もある。 ・他のグループの発表を聞き、自らの課題解決のための方法を見直す。
追究する 15時間	決めた課題を解決しよう ◇考えた方法で今の高幡を調べる。 ・実物をよく見る。 ・石碑や看板などに書いてある資料を読む。 ・今の姿を絵や写真、ビデオ等で撮る。 ・今の高幡について、聞き取り調査をする。 ◇考えた方法で昔の高幡について調べる。 ・自分の小さい頃のことと比べる。 ・見学する。 ・体験する。	・今の高幡については、児童の今までの経験や実物を観察して見つけたもの、そこから感じたもの、考えたものを大切にする。 ○昔の高幡については、地域の人と関わって調べる。 ＊高幡不動尊、若宮神社…高幡不動尊の人、若宮神社のお祭りに携わる人、定期的に掃除をされている人 ＊潤徳小学校…児童の祖父母、父母などを中心とした潤徳小の卒業生 ＊商店街…昔から商店街にお店を構える人 ＊新選組…子孫、歳三資料館の人、新選組愛好会の人、新選組関連の商品を扱っているお店の人 ＊交通…高幡不動駅の人、駅周辺に昔から住んでいる人、京王線にお勤めの経験がある人

	・絵や写真、ビデオ等で記録に残す。 ・聞き取り調査をする。 ・年表を読み、歴史を知る。 ・昔の写真と今の写真を比較する。 ・市やまちの取り組みを調べる。 ・昔の人の想いを想像する。 ・必要な資料を探す。 ・資料から昔の人のくらしを考える。	*水辺…市役所の人、水辺の楽校の人、水辺に昔から住んでいる人 *有名人…子孫、昔話を知っている人、資料の編纂に関わる人 ・教師が持っている資料や情報は、活動の進み具合や児童の興味や疑問に応じて提示する。 ・市役所の各課、施設を利用する場合には教師が事前に連絡を取り、学習の内容を説明する。
表現する 5時間	調べたことをまとめよう ◇今の高幡と昔の高幡、人々の関わりを工夫してまとめる。 ◇地域のひととの関わりをまとめの中に入れる。	○絵や写真、表、図などを利用して工夫してまとめる。 ・昔と今の比較ができるよう、また、当時の人々や、現在の人々の関わりをおさえたまとめができるよう表現の仕方をアドバイスする。 ・地域のひとと関わって感じたこと、考えたことを書き残すようにアドバイスする。
振り返る 5時間	調べたことをもとに、これからの高幡のまちについて考え、自分にできることを考える ◇みんなが調べたことをもとに高幡の歴史年表をつくる。(本時) ◇いつまでも残ってほしいものは何かを考える。 ◇自分にできることを考え、活動する。	○自分たちが調べた課題をもとに自分にできる活動を考える。(まちの人に知らせる、まちに還元できる活動をする) ・まちのよさを見つける。(まちの人が親切に教えてくれる、教科書と同じように高幡のまちにも歴史がある、歴史的なものを残そうと努力している人がいる)

3. 本時の指導

(1) ねらい

みんなが調べたことをもとに高幡の歴史年表をつくり、高幡のまちにもたくさんの歴史が残っていることを理解する。

(2) 本時の展開

過程	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ	今までに調べたことを思い出す。	・発表で使ったまとめを黒板に掲示しておく。
活動する	歴史年表を作る。 ・自分たちが調べたことを年表に書き込む。(グループごとに1枚作成する) ・発表し合う。 ・教科書で学習した内容と同じ時代にあったことを知る。	・前時までに年表に書き込むことを短冊に書いておく。 ・各グループが作った年表を並べて掲示し、他グループと関連付けができるようにする。 ・社会科の教科書を使い、日本全体の歴史と関連させる。
まとめる	年表を作ってみてわかったこと、考えたことを発表し合う。	・高幡のまちにも歴史があることを理解する。 ・歴史年表をみて感じたこと、考えたことをまとめさせる。

4. 児童の様子(学習感想から)

- ・高幡の人たちは「ゴミを捨てない」などで高幡不動尊のことを大切にしている。
- ・高幡不動尊につながる商店街には、昔からある店も残っていて、昔のことがわかるこうした商店街

がいい。お店の人たちもそう思っていることがわかった。

- 今まで知らなかったけど、高幡不動尊にはたくさんの行事があり、それぞれその行事をやる理由がちゃんとあって、市民の人やお坊さんたちが、高幡不動尊の歴史と行事を今まで守ってきたんだとわかった。高幡不動尊の魅力について調べパンフレットにしたい。
- 橋とまちと学校とはかかわりがある。だから、いつまでも潤徳小や橋の歴史が残っていて、人々の役に立っているような高幡のまちにしたい。そのために、今まで調べたことを紙芝居にして学校の図書室に置いておく。

(6)教材名 昭和35年頃の旭が丘地域のようす
(社会科 中学校1年「身近な地域を調べよう」)

1、ねらい

現在（平成18年）と昭和35年当時の地図を見比べて、郷土（身近な地域）についての関心を深める。

2、主題設定の理由

日野四中は昭和48年に開校した。開校より10年ほど前（昭和37年頃）の本校周辺は、ほとんど人家がない状況であった。住民の多くは、日野市の人口の急増期（昭和40年代後半から50年代前半）に移り住んできた。つまり、生徒の親に当たる年代の人々についていうならば、日野市で生まれ育った割合は少ない、と考えられる。生徒は日野市で生まれ育ったのだが、親から身近な郷土についての情報を得る機会はどうしても少ない。かかる状況においては、生徒の郷土への知識や関心は希薄になりがちである。そこで、生徒自らが郷土に関する課題を見つけ、その課題を自ら調査し、解決しようとするれば、自ずと、郷土への関心が高まり、愛着も深まるだろうと考えた。

今回は自分たちの住んでいる地域の過去の地図を提示し、現在の町の様子と比較することによって郷土を調査・探究する課題を見つけさせ、調査活動をとおして、郷土発展の背景などの理解や、地域の人々とのふれあいを豊かにし、郷土（身近な地域）への愛着と誇りを育むことを目指して主題を設定した。

3、具体的な展開

昭和35年当時の学区周辺地図を提示し、現在と昭和35年当時でどちらにも共通している部分、変化したところをあげさせ、さまざまな疑問点から課題をつくり、探究・まとめをとおして地域の発展と人々の関わりを考えさせる。

(1) 昭和35年当時と現在と変わっていないところをあげてみよう

共 通 点	疑問点や課題、調べたい項目など

(2) 昭和35年当時と比べて変わったところをあげてみよう

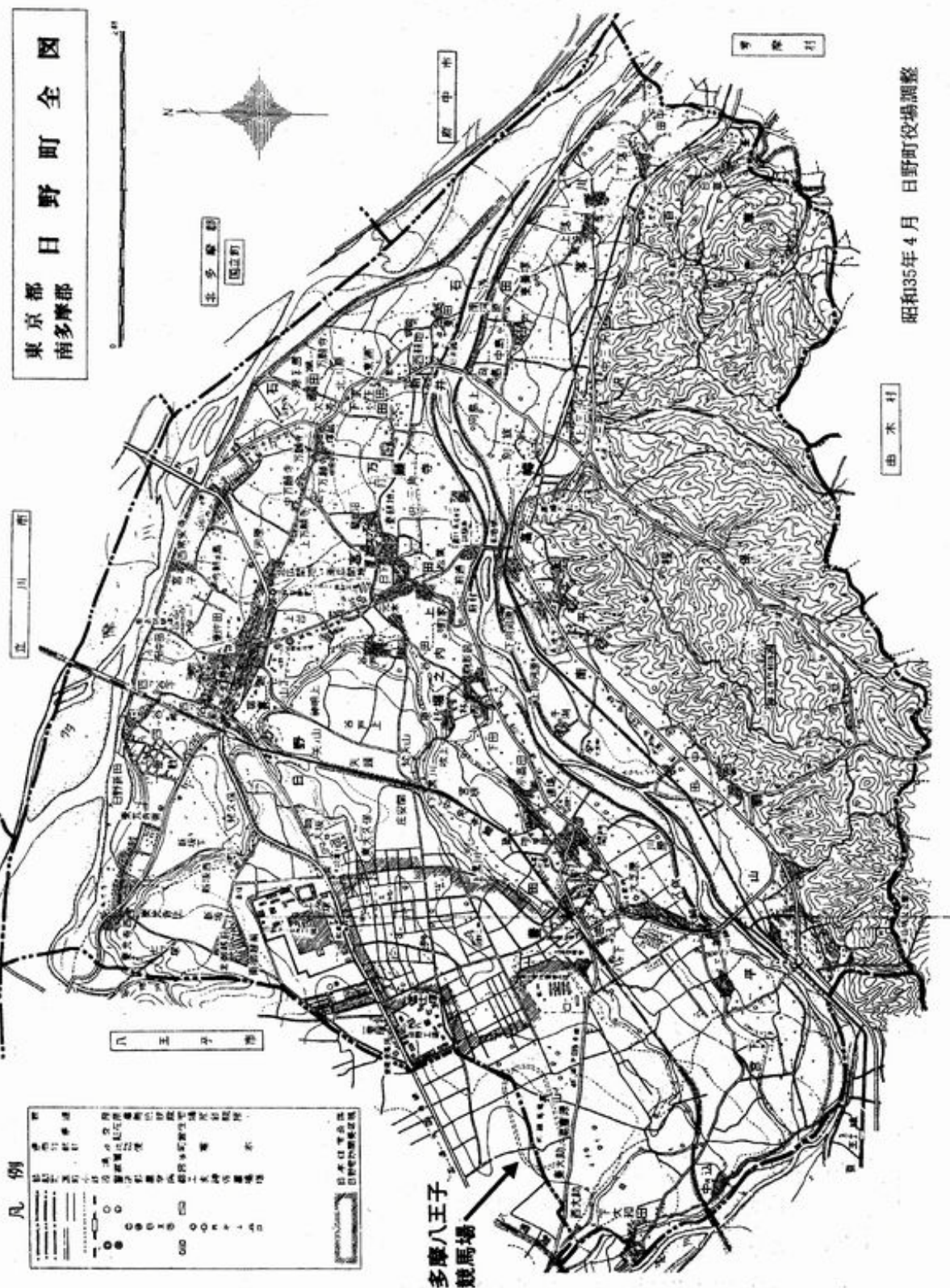
変化したところ、現在と異なるところ	疑問点や課題、調べたい項目など

〔予想される具体例〕

共通点	疑問点や課題、調べたい項目など
・日野二中がある ・平山地区に水田がある ・豊田駅がある ・富士電機の工場がある	→しかし、日野町立になっている。 課題：日野市ができたのはいつか。 どのような町や村が合併したのか。 日野町の人口はどれぐらいか。 →どうして水田が今まで残っているのだろうか。 →昭和37年と現在の時刻表を比べて、時間あたり の本数から、利用頻度を調べてみよう。 駅前は今現在のようににぎやかではなさそう→ 課題 多摩平商店街はいつごろできたか。 課題 大手の銀行はいつごろ、できたか。 →当時の工場では何を生産していたのか。現在はどうか。 課題 現在の富士電機の工場の敷地は減少している。どうしてか。

変化したところ、現在と異なるところ	疑問点や課題、調べたい項目など
・日野四中がない。 ・「旭が丘」という地名がない。 ・旭が丘小学校、日野第六小学校がない ・多摩平団地がない ・中央公園の南側に工業団地がない ・四中のあたりは、競馬場の跡地だったようだ	→四中はいつ頃創立したのか。何学級あったのか 創立当時の2年生、3年生は前の年はどの中学校に通っていたのか。 →四中創立当時の日野市の人口はどれぐらいか。 →いつ、この地名がついたのか。また、町名の由来は？ →当時の小学生はどの小学校に通っていたのか。 2つの小学校がいつできたのか。市の人口増との関係があるのではないか。 →多摩平団地はいつできたのか。多摩平団地のような大規模な団地ができた背景は？ →東芝や帝人という大工場が進出してきたのはいつ頃か。 なぜ この地に進出してきたのか →競馬場がなぜなくなったのか、どのような競技が行われていたのか、地域の人は競馬場とどんな関わりをもっていたのか、競馬場の歴史を調べて みたい。

※ 地理的技能的な見方・考え方にたって、歴史的背景にも留意して人の営みと関連づけ、地域の特色を追究させたい。



(7)教材 多摩平団地の今と昔ー郷土「日野市」を調べようー

(社会科 中学校第1学年 地理「身近な地域を調べようー郷土日野を調べようー」)

1、ねらい

- ①郷土「日野」の姿を工業、農業、団地、交通、商業の移り変わりを通して知る。
- ②現在の郷土「日野」の姿を知ること、郷土「日野」に対する興味関心を高め、愛着を育てる。
- ③地理的な見方、考え方を育成する。

2、指導計画 (9 時間扱い)

	主な学習活動・学習内容	副読本「のびゆく日野」
1 時限	地域を調べる手順・方法を学習する。	* 日野市の地図
	野外観察、聞き取り調査の注意点を学習する。 校区や日野市の地域に何があるか把握する。	* 地図記号 p 7 参考
2 時限	日野市の地形図をもとに、地域の特色を読みとる。	p 3
	日野の自然環境 日野の地形 水の郷 日野	p 4 レッツトライ 1, 2 p 9, p 10
3 時限	日野市の地形図をもとに、地域の特色を読みとる。	p 5 レッツトライ 4, 5, 6
	日野の移り変わり (都市化の進展)	p 6
4 時限	日野市の特色を	p 11
	日野の工業、日野の農業、日野の団地、日野の交通、日野の商業から課題を発見し設定する。①	p 16 レッツトライ 14
5 時限	日野市の特色を、	p 17 レッツトライ 15
	日野の工業、日野の農業、日野の団地、日野の交通、日野の商業から課題を発見し設定する。②	レッツトライ 16
6 時限	課題を追究するために	
	「のびゆく日野」、「とうけい日野」、「インターネット」より情報収集する。 必要に応じて聞き取り調査を実施する。 資料を整理しまとめる。①	
7 時限	課題を追究するために	
	「のびゆく日野」、「とうけい日野」、「インターネット」で情報収集する。 必要に応じて聞き取り調査を実施する。 資料を整理しまとめる。②	
8 時限	課題のまとめと発表	
	調査の結果をレポートにまとめ発表する。①	
9 時限	課題のまとめと発表	
	調査の結果をレポートにまとめ発表する。②	

1年生の地理教科書に「身近な地域を調べようー私たちの八王子」の単元がある。この単元は八王子を例に地域調査の仕方、課題の作り方を学ぶ学習である。この単元を基に身近な地域である「日野」を取り上げて、地域「日野」を郷土「日野」にまで高めるためには「日野」を客観的に単なる学習対象としてみるのではなく、地域「日野」に対する愛着意識を持たせることが必要である。今ある地域をそのまま見るだけでなく、日野の移り変わり、「変化」を知ること、現在の「日野の姿」が、そこにある人々の暮らしの積み重ね、日常性の歴史の積み重なりの上にあるという理解が生まれる。そこから出発して、「日野」への愛着、「日野」への誇りが生まれ、それにより、単なる地域「日野」が「郷土日野」へと心の中に变化するのである。さらにより良い「日野」をつくる担い手としての意識にまで高められることで郷土意識が確かなものとなる。

郷土教育を推進する上では、地理的な課題・見方に加えて、変化についての課題、たとえば、多摩平団地はいつごろできたのか。日野自動車と日野との関係は。等、地域の移り変わりの視点を入れた課題が必要と考える。副読本「のびゆく日野」では、その視点が取り入れられたレッツトライがある。副読本を活用することで、地域学習から郷土教育へ転換が可能になるといえる。

実践では、日野の地図から日野の概観の理解、地図記号を用いての学習、日野の地形、自然の利用と都市化への気づきを学習した。桑畑、水田、郵便局、交番、学校、団地と記号を追いながら、日野の今の姿、人が多いから郵便局が多い、郵便局は道路に面しているところに設置されている。という気づきがみられた。日野の農業、工業、団地、商業では副読本に加え、「多摩平団地の今と昔」の資料を用いた。資料を基に、「昔はこうだったのか」と驚きと郷土に対する関心と意識が高まった。

「多摩平団地の今と昔」の授業では、多摩平団地について知っていることを尋ねたところ、クラス平均6人であった。団地について知っている内容は、『部屋が狭い、狭い階段がある。商店街があった。古い、2階まであった。リビングは4畳半であった。老人が多く住んでいる』があげられた。驚いたことに「多摩平の森」が「多摩平団地」であることを知らない生徒が少数いた。「多摩平の森」は各クラスとも3分の1強の11から12人の生徒が知っていると答えた。生徒にとってはすぐ隣の団地の存在は気付いているが、実際に団地の名前は知らず、ただ団地という存在であり興味関心の対象ではないことがわかった。そこで、「多摩平団地について調べよう」と投げかけ、知りたいことをあげさせた。いつから団地の計画が始まったか、どのくらいの規模か、団地の人々の暮らし振りは、等の項目ができました。このことについて資料「多摩平団地の今と昔」から調べさせた。

資料を使って調べていくことで、生徒は『「多摩平団地」はとても昔からあるのでびっくりした。昔は今と違って団地にすむだけでもすごくお金がかかっていてびっくりした。今はすごく古く見える団地が昔は日本初の大型開発団地であったし、給料の水準に比べると家賃が高く当時はとてもいい設備であることを知った。』と述べていた。生徒は団地が半世紀50年を経ていることと日本初の大型団地の開発であったことに驚き、当時の生活がかぎ一つでの外出可能なこと、風呂つき水洗トイレが好評に、今の生活ではあたりまえであると思われることが当時は最先端であり、家賃も当時の水準からすると高いことに驚きを感じていた。また、日野に移り住んだ新しい一万人規模の住民が活発な住民自治活動を行なって、保育所の充実など地域社会にも影響をあたえたことも知って驚いていた。

「のびゆくひの」レッツトライの人口増加のグラフ作成ページを使用して大型団地の開発が日野市の人口増加の端緒となったことも併せて学習させ、日野町から日野市への大きな変化をもたらしたことを学習させた。

まとめとして「多摩平団地」から「多摩平の森」の変化を資料から読み取らせた。

生徒は、『立替のときも住民自治の伝統が生かされていることを、住民の意見が取り入れられて、緑に囲まれた環境を残して新しい団地に建て替えられたのはすごいと思った。「多摩平の森」が緑に囲まれていて、設備や造り、駐車場や集会場の設置が住民の意見が取り入れられてすごくいいと思う。』という点を多くあげていた。「設備ではバリアフリーがあるよ。」という生徒の発言も見られた。

この授業を終えての生徒の感想は、『古くて汚くなったから、建て替えられたという感想から、団地の開発がものすごい規模だったのが驚きだった。工事は私が3年生まで続けたいけど完成がとても楽しみです。楽しかった。多摩平団地が今の多摩平の森だったのには驚いた。もっと驚いたのは多摩

平団地が日本で初めての大型団地だったことです。団地がどうしてできたのか不思議だったので今回分って良かった。』という内容であった。

身近な郷土に眼を向け関心をもった発言や、さらに完成が楽しみという発言にみられるように郷土をさらに見守りたいという意識の発言もみられたことは成果であった。

このように実際に「郷土教材」を授業に取り入れることで郷土日野に関心が高まり郷土に目を向けるようになるという成果がえられるだけでなく、生徒の発言にみられるようにさらに一歩進んで郷土日野の発展を見守り、見届けたいという郷土意識までつなげることができるという点で、郷土教育の重要性が改めて認識できた。

第8部 家路・日野

①テラスハウス(Ⅰ)

「厭井沢みだいた」
日野市にある多摩平団地を初めて訪ねた時の印象を、下村操さん(77)は忘れない。
1962(昭和37)年、小雨のそぼ降る日だった。国鉄中央線の豊田駅から歩いて15分。野集パンフレットに「富士の見えるニュータウン・40万坪の緑の街」とあった通り、緑あふれる団地だった。それまで下北沢のアパートに住んでいた。長男が生まれ、伸び伸びと子育てできる環境を求め、日本住宅公団の団地に応募した。
だが、さっぱり当たらな

い。時代の最先端をいく団地は、家賃は決して安くなかったが「団地族」という言葉が流行するほどの人気だった。3年間で31回落選。落選の多い人に与えられる「優先入居」の特典でこの団地に選んできたのだ。
58年に完成したばかりの団地は総戸数2702。平屋から4階建てまでタイプや広さ



垣根越えた付き合い



の違う建物が並んでいた。下村さんが移り住んだのは「テラスハウス」と呼ばれる建物だった。
専用庭のある長屋建ての低層集合住宅で、50年代半ばから60年代半ばにかけて、郊外の団地で盛んに建てられた。1階には4畳半の和室と台所、風呂場、トイレ、2階には6畳間と3畳間があり、室内の階段で上り下りする。住宅の間口はわずか4メートル、南向きの専用庭は奥行きが9メートルあった。

日当たりの良い、素附らしは奥立ち、みんな年を取っ
オヤキンモクセイ、シンヒジタ。老朽化した団地では、建て替えが進んでいる。住み慣れたテラスハウスも来客には去らねばならない。新しい高層住宅に入れば、気心の知れた人たちとも離ればなれになるだろう。
「つらいなあ」。庭の草木を眺めながら下村さんは目を細める。
引越しが近づいたら住人たちで「お別れ会を開く。たくさんさんの思い出詰まったテラスハウスに乾杯するつもりだ。」

日だまりⅡ日野で

(平成16.11.16 朝日新聞)

(8) 教材名 坂西横穴墓群

社会科 中学校第1学年「身近な地域の歴史」

1. わらい

- ア、遺跡の見学や調査を通して身近な地域の歴史に関心を持ち、歴史についての学び方を身につける。
- イ 身近な地域に残る古墳の調査を通して、当時の人々の生活の様子を具体的に理解し、郷土への関心や我が国の歴史を学ぶ意欲を高める。
- ウ 古墳の調査からさまざまな資料を収集し活用し、それらをまとめ発表する技能を身につける。

2. 指導計画（7時間扱い）

時	学 習 計 画	留 意 点	評 価 の 視 点
1 ・ 2	・身近な遺跡を調べよう	●学校周辺の遺跡について調べる。意外に身近な所に多くの遺跡があることに気づかせる。 ●「のびゆく日野」、市制20周年記念「日野のあゆみ」等活用	●身近な遺跡を意欲的に調べられたか。 ●学習を深めようとする関心が高まったか。
3 ・ 4 ・ 5	・レポートにまとめよう	●各自が分担して発表用の原稿を作ることにより、自分の考えをどのように表現するかを考えさせる。	●最後まで諦めずに、取り組むことができたか。
6 ・ 7	・発表しよう（班ごとに発表） ・地域の歴史の発展について考えをまとめよう	●発表を聞き、互いに評価し合うことで課題について話し合わせる。 ●自分では気づかなかった新たな問題点を発見させる。 ●「ふるさと日野」を意識させる。	●課題・意見などがうまく表現できたか。 ●色々な考え方があることを知り、互いに意見を出し合うことができたか。

3. 評 価

- ア 遺跡の現地調査や体験活動を意欲的に行っている。（関心・意欲・態度）
- イ 調べた結果をレポートに的確にまとめている。（技能・表現）
- ウ 地域の発展について考えている。（思考）

4. 本時の指導

題材 「身近な遺跡について発表しよう」 6/7

(1) 本時のねらい

- ・身近な遺跡について、各班ごとに分かりやすく発表する。
- ・いろいろな工夫をして発表をすることを通して表現力を養う。
- ・身近な地域の歴史を発表することにより、郷土への愛着を深める。
- ・さまざまな遺物や遺跡などから、当時の人々の生活に関心を持たせる。

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 方 法
導 入	●本時の確認。	●発表順・発表形式の確認。 ●模造紙、プリントなどの準備。	●準備をきちんとしているか。 (観察)
展 開	●各班の発表	●発表を聞き、互いに質問し合うことで、発表内容を確認する。 ●他の班の発表を聞き、表現方法・発表内容の良かった所に気を付けるように確認する。 ●評価・質問などのワークシートを用意しておく。	●課題意識を明確に持っているか。(観察) ●分かりやすいか。(観察) ●意欲的な態度で発表を聞くことができたか。(観察) ●互いを認め、尊重できたか。(質問・記述内容)
ま と め	●ワークシートへの記入	●全員に記入させる。	●時間を確保する。 ●今後の学習意欲が喚起できたか。(記述内容)

(3) 評 価

- ア 課題を適切な方法でまとめ、分かりやすく発表することができたか。
- イ 各班の発表を聞くことにより、古代の人々の生活の様子を把握することができたか。

(9)教材名 多摩動物公園 郷土教材を利用した取り組み
(道徳 中学1年生 「日野の宝―地域につくした人々―」)

1、ねらい

- ・郷土につくした先人の苦労を通して郷土に対する愛着を育む。

2、主題設定理由

「郷土につくした先人の苦労を通して郷土に対する愛着を育む。」ことを目的に郷土教育推進研究委員会で入手した多摩動物公園誘致の七生村の新聞記事をもとに道徳の授業実践を行った。

3、授業実践の展開

資料（七生村広報の記事）から郷土に対する人々の意気込みと郷土をよくしたいという熱意を読みとらせ、中一の生徒に「島人の宝」（作詞・作曲ビギン）の歌を聴かせた。その後、日野の自慢できる場所、好きな場所をあげさせて、ビギンの「島人ぬ宝」を日野市バージョンに歌詞を代えて歌い、郷土日野の愛着を図った。

生徒が取り上げた、場所は

- ・ 多摩動物公園 ・ 日野自動車 ・ 新撰組 ・ 豊田駅前商店街
- ・ 多摩テック ・ 多摩平の森 ・ 児童館 ・ 近所の駄菓子屋
- ・ よさこい祭り ・ 緑が多い
- ・ 自然が多い（黒川第一公園、畑、農家が多い） ・ 吹上大仏
- ・ 高幡不動尊 ・ 土方歳三の出身地 ・ 黒川清流公園 ・ 浅川
- ・ 豊田駅

他に、自動販売機が多い、店が多い、家の前に蛍がでる、一輪車が日本一（クラブ）など、自分の生活に関係する身近な場所や思い出の場所をあげた生徒もいた。

普段の生活で郷土を意識せずに生活している生徒にとって、あらためて日野の自慢できる場所、好きな場所をと聞かれても、すぐに思い浮かばずとまどいがあり、自分の生活に関係するものをあげた生徒も多かった。

このことから、郷土意識は自然と生まれ深まるのではなく、授業で郷土を取り上げることで、郷土に対する関心や興味が改めて高められことができた。この積み重ねにより郷土意識へと発展することが期待される。この授業をきっかけに郷土日野への関心を高めることができた。

自然動物公園の設置準備進む

私たちの村に都立自然動物公園が設置される運びとなっている。その準備が着々と進んでおり、敷地10万坪の買収が予定されている。そこで、東京都が本村に動物園を設置する動機について、本村平山出身 都庁職員 馬場密蔵氏にその成り行きについてお話を伺った。以下はその話の要旨である。

はくせい

上野動物園は手狭で、剥製の陳列場である

都立上野動物園は規模の大きさではわが国で一番であるが、敷地が狭く、外国の動物園に比べると、剥製の陳列場といった状態である。しかし、入園者がこのところ激増し、いつも超満員の状態といった状態となっており、十分な見学ができないまま帰る客が多い。

そこで、分園を設置する話しが持ち上がり、候補地の選定を検討してきたが、10万坪の敷地を確保できる条件に当てはまる場所として、多摩丘陵の七生村の名前があがった。その後、都の職員や多くの専門家が実地踏査をし、ほぼ内定したのである。

高幡より程久保にわたる丘陵10万坪を候補地に

都議会でも動物園設置の請願が採択され、その後、安井都知事も渡米し動物園視察を行うなど、具体的な準備が関係の諸機関で着々と進められ、具体化しつつある。

あかつき

完成の 暁 には七生村が日本中に知れわたる

わが村に動物園の分園が設置されるにともなって、多くの見学者が訪れることが予想される。当然、交通網の整備が急がれるわけである。現在唯一の交通機関である京王電鉄にその趣旨を伝え、大いに賛同し、「敷地10万坪の買収についてはわが社が引き受けてもよい」との回答を得、計画はきわめて順調に進んでいる。

しかし、東京都がこの計画を完成させるまでには今後莫大な経費と労力を要するはずであり、数期にわたる分割事業として進めていくことになるだろう。

ともかく完成の暁には、七生村は東京都の七生村ではなく、日本全国にその名をしられるところとなる。わたしたち村民の大いに誇りとするところである。

※今から50数年前の話である。戦争が終わって数年しか経っていないころから動物園の話が持ちあがっていたことがわかる。

IV. まとめと課題

1. 郷土意識を育む ―郷土と人々との関わりの理解をとおして―

- 人々の願い・働きかけ・地域の暮らしとの関係に重きをおいて、郷土教材を学習展開することで、その時々の人々の思い、努力や協力等、人の生き方を学び、驚きから郷土に対する関心と意識を高まりをみた。また、自分たちの地域を大切にしていこうとする態度が育まれていっていることを表情や言動、記録からとらえた。
- 日野の歴史にふれ、中央の歴史を学んだことで、国の歩みと郷土の歩みとの関連性を知り、その当時のできごとが郷土の歴史の礎となっていることに関心を向ける児童生徒の姿があった。

＜児童生徒の声＞ “周りの地域にはこんな歴史のつまった財産がたくさんあり、また、こんなにすごいものが昔から今まで残っているのはありがたい。” “長い年月がたってもなくなっていないのには驚いた、周りの人たちの残したいという思いで残ったんだと思う。” “自分が大人になったときにもこのまま残せたらいいなあとと思った。” “政談演説会が除夜の鐘を鳴らしたことのある宝泉寺で行われたことや、日野に新しい考え方を広めようとした人がいることに驚いた。”

2. 授業に使える郷土教材の収集と開発を行う ―学区を中心に範囲を広げる―

- 郷土の素材を教材化の視点で見直し、学校周辺の郷土教材・文化財について指導者自身が学んだことは、より子どもにその文化財の価値を伝えたいという思いを強くした。

3. 事例集を活用する ―学校教育に根づく―

- 第2集は教材収集・開発の地域をさらに広げたので、指導者は利用しやすくなってきている。郷土教材を活用した授業は時数の上から難しいとする5・6年生や中学校でも、学習の過程で郷土の話をしてもらい、郷土に関心のもてる児童生徒を育成したい。

4. 資料館・図書館・歴史館との協働で学習活動をつくる―連携による協働学習のあり方

- 関係機関との連携によって調べ学習がスムーズになり、多様な学習活動から学習意欲の向上があった。
- 体験をする、実物にふれる、専門的立場の人からの説明を聞く学習によって、感動や学びの楽しさを実感させた。多くの指導者による学びは理解を深めるだけではなく、インターネット上にはない人への信頼・感謝の心の芽の成長があった。こうした協働による学習活動の積み重ねは将来に向けて良好な人間関係を営む礎になるものと考ええる。

◎研究の時間が確保しにくく、検証授業は充分ではなかった。しかし、郷土教材を活かした学習の継続こそが、郷土への意識を高め、郷土を理解し、着実に郷土を大切にしたいと思う心を育むことを確信した。そして、協働学習は様々な学習への意欲や、地域の一員であることを自覚する児童生徒の成長に大きな役割をもっていることを研究から得ることができた。

◎次への課題

- ①各学校においてより実践化しやすい郷土を知る計画の具体化
- ②郷土学習の展開を容易にする教材の作成と収集・開発の推進
- ③郷土学習の興味関心の高揚の普及

資 料

1. 各校の記念誌に収録された郷土教材
2. 「『郷土日野』指導事例第1集」、並びに、郷土教材
の活用状況について

1. 各校の記念誌に収録された郷土教材

学校の節目毎に作成される周年記念誌は、まさに郷土資料の宝庫といえる。その一つは、学校や地域の変遷、自然・文化・伝統等が、実にわかりやすくまとめられている。二つ目は、児童生徒の健やかな成長を願い、教育への期待が込められた関係者のお祝いの挨拶に、その時その時の社会の動静が伝えられてい。三つ目は、児童生徒の描く夢をとおして、時代の変化の中で育つ子どもの姿があり、「明るく、楽しく、立派に成長したい」という願いに、いつの時代も変わらぬ子どもの心にふれることができる。

100 周年、110 周年と記念誌のページをめくる毎に、次代に引継ぐべき宝を、是非ともたくさんの方々に知っていただきたいという思いが募り、まずは次のような一覧表を作成してみた。教材化する上で、また、「ふるさと日野」を知る上で是非、参考にしてほしい。

なお、教育センターに保管されている記念誌から収集したもので、各学校の周年記念誌を網羅したものではないことをご了解されたい。

学校名	寺社・石碑・仏像・遺跡・交通	その他（人物、昔話、古文書他）
日野一小	東の地蔵・西の地蔵、八坂神社、脇本陣、問屋場跡、日野の渡し、大正の頃の日野鉄橋、昭和初期の甲州街道、明治30年代の日野駅	日野町役場、日野用水
日野二小	善生寺、延命寺、寺子屋の跡、豊田学校発祥地碑、若宮神社、耕地整理記念碑、多摩川にかかる鉄橋、大正の頃の豊田駅	水車小屋、日本ふるい絹工場（昭和初期）、湧水、長屋門（学校）、明治の教科書、疎開先での勉強、農機具
日野三小	七つ塚古墳、姥久保遺跡	日野台の昔話（首塚、上人塚、日野坂のきつね、安産薬師、うなぎを食べない四谷の人々、神明様のお告げ）、日野台の自然
日野四小	安養寺、万願寺渡し場跡、土方歳三の墓、街道沿いの石仏、一里塚、庚申供養塔、日野の渡し、中央線の昔と今	とうかん森、日野橋ができる前の渡し 日野橋下流で水泳する子ども、明治の教科書
日野五小	吹上遺跡、大正・昭和の豊田駅、SL が走る多摩川鉄橋	日野の伝説（上人塚）、
潤徳小	真照寺（昭景学校）、文永の大板碑、高幡不動尊、寿徳寺、医王寺、大正15年玉南鉄道、昭和10年頃の高幡不動駅	学校区にあった寺子屋と私塾
平山小 平山小 平山台小	平山季重の石碑・墓・像、八幡社、宗印寺、林丈太郎墓碑、薬師堂、平山・滝合橋、京王線の歩み、平山橋	平山城址自然公園自然マップ、浅川の鳥、平山歴史マップ、秋間為子、林丈太郎、平山の史的資料（季重記など）、大名淵
日野八小	落川遺跡	
百草台小		百草に伝わる昔話（三沢の小梅、いんげん寺）、周辺の自然

滝合小	平山遺跡、宗印寺、平山季重の像・墓、八幡社、あたご山地蔵、庚申塚、馬頭観世音、昭和１２年頃の豊田駅、開墾記念碑、弁天様	鮫陵源、平山季重、林丈太郎、秋間為子、さいかち堰
日野七小	坂西横穴墓、神明社、昭和１２年頃の日野駅	日野用水
南平小	平維盛の板碑	天保年間の絵地図、
旭が丘小	狩の像、高倉稻荷神社、山王社	新田公園、東大助緑地、競馬場
仲田小	日野の渡し碑、トンガラシ地蔵、馬頭観音、高札場あとの碑、甲武鉄道、日野の渡し船	多摩川と仲田用水路の生物、蚕糸試験場、日野宿の家並、甲州街道の移り変わり
夢が丘小 程久保小 高幡台小	身近な鉄道とまちの様子	公園の由来（おとぐち・かくれ穴・谷戸口）
日野二中	昭和３０年代豊田駅北口ロータリー	
七生中		昭和３３年頃七生中旧門

※自校の変遷を中心に、記念誌がまとめられている学校に関しては、一覧表を作成していません。
 下記の表を参考にして、学校に保管されているものがありましたら、教育センターに送付下さい。

＜参考＞教育センター保管の市内各小中学校の周年記念誌内訳

周 年	1 0	2 0	3 0	4 0	5 0	6 0	7 0	8 0	9 0	100	110	120	130
一小										○	○	○	
二小										○	○	○	○
三小					○								
四小									○	○	○	○	
五小			○										
六小		○	○	○									
潤徳小										○	○	○	○
平山小旧平山 旧平山台		○							○	○	○	○	○
八小		○	○										
百草台		○	○										
滝合小		○	○										
七小	○	○	○										
南平小	○	○	○										
旭が丘	○	○											
東光寺	○												
仲田小	○	○											
夢ヶ丘旧高幡 旧程久保	○	○ ○											
一中			○	○	○								
七生中		○	○	○	○								
二中				○	○								
三中	○	○											
四中	○		○										
三沢中	○	○											
大坂上	○												
平山中	○	○											

※記念誌の残部がありましたら教育センターへご送付下さい。

2. 『郷土日野』指導事例第1集」、並びに、郷土教材の活用状況について

調査対象者 市内各小学校3、4、5、6年の学年主任

市内各中学校1、2、3年の社会科担当

回収数 小学校3年18 4年18 5年17 6年18 合計71

中学校1年7 2年5 3年7 学年不詳2 合計21

回収最終日 平成18年9月8日

【1】「『郷土日野』指導事例」第1集を知っていますか。

次の項目1～6の中で選択

1、あることを知らない 2、知ってはいるが内容を見ていない 3、内容を概観した 4、関心

のあるところを読んだ→その事例は何か(※1) 5、あることを知っているが、事例の第1

集

を見たことがない 6、今後活用したいと思う

単位(人)

項目	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	学年不明	小計	合計	%
1※	6	7	7	8	28	3	1	4		8	36	31,9
2	1	6	4	2	13	1	2	2		5	18	15,9
3	7	3	4	4	18	2	2	1		5	23	20,4
4	4	1	3	2	10	1	2	1		4	14	12,4
5	2	1	2		5				2	2	7	6,1
6	2	2	1	3	8	2	1	2	2	7	15	13,3
合計	22	20	21	19	82	9	8	10	4	31	113	

※1「関心のあるところを読んだ」について→それはどの事例か

小学校 事例1(豊田用水)2 事例2(新選組)2 事例3(郷土資料館の活用)4

事例5(校章・校歌の活用)1 事例6(郷土教材のワンポイント)3

中学校 事例2(徳川幕府と新選組)2 事例3(郷土資料館の活用事例)2

事例4「のびゆく日野」の活用3 資料(出張授業・出張展示の案内、図書館利用)

1

●事例集への関心について調べたものだが、項目1、2、5の回答者が全体の50%になる。

【2】授業の中で活用したところがありますか。(複数可)

次の項目1～5の中で選択

1、活用しなかった 2、活用しようと思ったが、できなかった(それはなぜか※2) 3、授業の一部に話材として活用した(事例名※3) 4、指導事例の展開(一部活用も可)で授業を行った(事例名※4) 5、指導事例どおりではないが、主教材として活用し授業を展開した(事例名※5)

項目	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	学年	小計	合計	%
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

									不明			
1	1 2	1 5	1 5	1 1	5 3	6	5	6	2	1 9	7 2	81, 8
2※	3	1	4		8	1		1		2	1 0	11, 3
3※				2	2						2	2, 1
4※	1	1		1	3						3	3, 5
5※				1	1						1	1, 1
合計	1 6	1 6	1 9	1 5	6 7	7	5	7	2	2 1	8 8	

※2について 活用しようと思ったができなかったわけ

※2について 活用しようと思ったができなかったわけ

- ・用水について、潤徳付近の古地図がないため【3年】
- ・現学年の学習にはあてはまらないので該当学年の時に活用しようと思っている【3年】
- ・事例集を最近（9月）になって知ったため【4年、5年】
- ・高学年での取り扱いがむずかしい、時間的なゆとりがまったくない【6年】
- ・授業時間に余裕がない【中1年】

※3について 話材として活用した事例

- ・事例6 郷土教材のワンポイント（自動車をつくる工業の年表、指導計画）【5年】
- ・事例2 副読本「ひのっこ新選組探検隊」【6年】

※4について 指導事例集の展開（一部展開も可）で授業を行った事例名

- ・事例2 郷土日野の特色・用水（豊田用水）の活用【4年】

※5について 指導事例どおりではないが主に活用した事例名

- ・事例2 副読本「ひのっこ新選組探検隊」【6年】

●「活用しなかった」の81, 8%は郷土教材の事例が各学区域内に及んでいないことも考えられる。

【3】郷土教材（地域素材の教材化）を授業に導入することをどのように思いますか。

次の項目1～3の中で選択

- 1、児童生徒を育成する上で、必要な教材と考えている 2、必要とっていない
3、その他（※3）

項目	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	学年	小計	合計	%
1	1 2	1 2	1 4	1 0	4 8	7	4	6	2	1 9	6 7	88, 2
2				1	1						1	1, 3
3※	1	2	1	3	7		1			1	8	10, 5
合計	1 3	1 4	1 5	1 4	5 6	7	5	6	2	2 0	7 6	

※3について 郷土教材を授業に導入する「その他」の考え

- ・内容の精選、吟味した上で使用したいと思う【3年、5年、6年】
- ・学区の教材ならば有効と考える【4年】
- ・歴史学習の中で時代に合ったものを取り入れようと考えている【6年】
- ・総合の調べ学習の資料として使える【6年】
- ・小学校まででいい【中2年】

●郷土教材が児童生徒育成上に必要は100%近い。

【4】授業で郷土教材（地域素材の教材化）を活用する場合、あなたにとって課題は何ですか。

自由記載

- ・教師自らが地域を知ること（歴史・発展、資料集め、学区探検、実地調査）《3年、4年、5年、6年、中1年》
- ・地域をあまり知らないので活用がわからず、活用は厳しい《3年、4年、5年、6年》
- ・地域素材を知る、郷土教材をじっくり研究するゆとりの時間がない《3年、4年、5年、6年、中1年、中3年》
- ・資料収集は大変であり、教材数は少なく活用できない《4年、5年、6年》
- ・郷土に関する人材バンクが充実していると活用しやすい《3年》
- ・学習のねらいに合致し、発達段階に即した教材を掘り起こし、その有効活用の方法《3年、4年、5年、6年、中2年、中3年》
- ・地域には教材がたくさんあるので整理統合する《4年》
- ・学校に蓄積されている資料が古い、新しいものを教材化する余裕がない《4年》
- ・郷土に関する資料が少なく、「日野市史」のようなところから得なければならず、必要な資料提示、教材化が困難《4年、6年》
- ・写真、地図の掲示用があるとひきつけ展開しやすい《6年》
- ・特に3年生で使用する副読本は指導書がないので使いにくい《5年》
- ・実踏、実施日の日程や交通手段のやりくりや、安全面《4年、5年》
- ・授業時数の余裕がなく、指導計画の配当時数との兼ね合い《6年、中1年、中2年、中3年》
- ・利用できる郷土教材の情報とその管理、郷土教材の一覧表作成と誰もが活用できるようにしていくこと《5年、6年》
- ・講師との打合せ（子どもの実態に合わせた内容、話し方）《6年》

【5】郷土教材（地域素材の教材化）を活用した授業についてあてはまる番号を選んで下さい（この1～2年の間）

次の項目1～2の中で選択

1、ある（どの学年で、何の教材を活用したかを記入※1） 2、ない



項目	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	学年	小計	合計	%
1※	10	8	6	11	35	3	3	3		9	44	60,3
2	4	6	7	3	20	4	1	3	1	9	29	39,7
合計	14	14	13	14	55	7	4	6	1	18	73	

※1 この1～2年間で使った郷土教材名

- ・多摩川探検^①、多摩川の自然^②、浅川博士になろう^③、浅川^④《3年、4年、6年》
- ・梨畑^⑤、梨園^⑥、ぶどう園^⑦、畑作^⑧、平山陸稲道^⑨、地域の農家^⑩、地域の店^⑪《3年、4年、5年、6年》
- ・かたくりの花^⑫、小沢緑地^⑬、自然公園^⑭、百草団地^⑮《3年、4年、6年》
- ・豊田用水^⑯、日野の用水^⑰《4年、5年、6年》
- ・昔の人々の生活と道具^⑱、縄文土器・火おこし^⑲《3年、6年》
- ・デイサービスセンター^⑳、浅川苑^㉑、光の家^㉒《4年、5年》

- ・郷土資料館（千歯こき利用）総、新選組のふるさと歴史館国《4年、5年》
- ・日野自動車工場社《4年、5年》
- ・甲州街道総国《5年》
- ・平山季重社、新選組と土方歳三社総《5年、6年、中1年、中2年》
- ・七つ塚古墳、竪穴住居社、高幡不動尊社《6年》
- ・日野市条例社《中3年》
- ・副読本「のびゆく日野」社《中1年、中2年、中3年》
- ・副読本「ひのっ子新選組探検隊」《中3年》

【6】その他（希望、意見等）

- 1、教育センター
 - ・「わたしたちの日野」の教師用指導書を配布してほしい
 - ・案内略図を各校へ配付してほしい
- 2、郷土資料館
 - ・どの程度の資料が揃っているのかわかるようにしてもらいたい
 - ・3年生で学ぶことが多いので地図の展示等はむずかしい（大人としては面白い）
 - ・内容展示の充実、展示のスペースが狭い、日野の通史がわかる施設が必要
 - ・使いやすかった
 - ・見学、出張授業は大変わかりやすく、専門的に教えていただいた
- 3、新選組のふるさと歴史館
 - ・展示の充実を図ってほしい
 - ・年間をとおして新選組ゆかりのものが見られるような展示を
- 4、図書館
 - ・名著、新書をおいてほしい
- 5、「『郷土日野』指導事例 第2集」の作成
 - ・興味あるものを作ってもらいたい
 - ・事例集を使用した授業を進めていくには、教員分の冊子数で配付してもらいたい
 - ・これから生かしていきたい

<まとめと考察>

- 1、郷土教材を児童生徒の育成に必要な教材であるとする先生は97、8%と、関心は高い。しかし、授業で郷土教材を使っている先生の割合は低く、使わない理由としては、地域を知るゆとりがない、教材化が難しい、教科等の配当時数では教科書の内容を指導するので精一杯であるといった意見が多く寄せられた。

※考察 i 教材化可能な資料を収集開発し、学区を基本とした郷土教材並びに授業実践に基づいた展開例を掲載する。

「日野に対する誇りや、愛着を育む」市の特色を打ち出した教育課程編成を検討することも推進研究の視野に入れる必要がある。

- 2、第1集について知らない、あることを知っているが内容を見たことがないという回答が50%に達している。

※考察 ii 学校並びに関係機関の方々に、よく理解されよく知ってもらえるように働きかけていく。(事例集の増刷。事例集にそった資料の整備や、提供のあり方)

3、最近、授業で使った郷土教材名についてはたくさんの回答が寄せられた。回答を集約すると、それぞれの学校の地域のなりたちや特色を表していることがわかる。

※考察 iii 郷土教材を使った授業の事例（指導案等）を教育センターで収集保管し、各学校相互に活用できるようにしたい。学校の協力がほしい。
単独で作成された資料については、個人のところで留めてしまわないようにしたい。
学校には、校内で学年、教科等が扱う郷土教材一覧作成を勧めたい。

4、「事例 第1集の内容を概観した」「関心あるところを読んだ」「今後活用したい」を合計すると回答者の半数が事例集に関心を寄せている。

※考察 iv 第2集に一層の理解と関心の高まることを期待して作成する。

5、教育センター、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館への希望や意見について

※考察 v よさは継続発展を、要望等はできるところから検討を進めていく。

平成18年度

郷土教育推進研究委員会

委員長 小杉 博司 日野第一小学校校長

副委員長 秋山 譲児 日野第四中学校校長

委 員

小坂 克信 日野第四小学校教諭

鎌田 博志 平山小学校教諭

山形 慎一 日野第七小学校教諭

益田 俊隆 大坂上中学校教諭

金野 啓史 文化スポーツ課学芸員

猪俣 恵子 中央図書館司書

古家 新一 教育委員会指導主事

吉野美智子 教育センター所員

近藤 晴子 潤徳小学校教諭

横田 富信 百草台小学校教諭

高橋 清吾 日野第二中学校教諭

清水 敬造 日野第四中学校教諭

峰岸 未来 郷土資料館学芸員

会田 満 学識経験者

鈴木 基 教育委員会指導主事